

本調査の検討は同時に多数の地区を検討するもので類例が無いため、指導委員会に諮ると同時に論考・書籍の執筆や研究発表等で成果を報告することとした（大下永 2021a・2021b・2021d・2021f）。このようにして、多くの研究者の意見を踏まえながら調査内容に修正を加えた。

第7表 現地調査（歴史地理調査）の経過

年度	調査日時	調査地点	同行者	調査内容
平成30年度	平成30年6月25日	岡前館跡、小島城跡周辺、上町遺跡、古川城跡周辺、増島城下町	山村准教授、三好・大下	<ul style="list-style-type: none"> ・岡前館跡の現地確認。 ・小島城跡及び南麓（沼町）の現地確認。 ・上町遺跡周辺及び古川城跡南麓部の現地確認。 ・増島城跡及び城下町の現地確認。
	平成30年11月19日	向小島城跡周辺、小島城跡周辺、古川城跡	山村准教授、三好・大下	<ul style="list-style-type: none"> ・向氏拠点集落推定地区（信包殿野周辺）の現地確認。 ・小島氏拠点集落推定地区（太江）の現地確認。 ・小島城跡・古川城跡の発掘調査現場の確認。
令和元年度	令和元年7月17日	小島城跡周辺、向小島城跡周辺、増島城下町	山村教授、三好・大下	<ul style="list-style-type: none"> ・小島城西麓（杉崎）の街区構造の検討 ・向小島城南麓（笹ヶ洞）の確認 ・増島城下町の構造確認
	令和元年11月21日	小鷹利城跡、古川氏拠点関連地区（海具江）、高山城下町	山村教授、三好・大下、高山市教育委員会尾崎課長・押井係長（※高山のみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・小鷹利城跡発掘調査現場の確認。 ・古川氏拠点関連地区（海具江洞）の景観確認。 ・高山城下町における類例調査（町場構造の現地確認）。
令和2年度	令和2年11月4日	古川城跡、江馬氏下館跡、東町城下（船津・東町）、	山村教授、三好・大下・石川	<ul style="list-style-type: none"> ・古川城跡発掘調査現場を確認。 ・神岡町の江馬氏下館跡、東町城下における類例調査。 ・飛驒地域の在地勢力、金森氏拠点のあり方をモデル化する必要性を確認。
令和3年度	令和3年10月13日・14日	高山市内（高山城下町、松倉城跡、三仏城跡、鍋山城跡）、下呂市内（桜洞城跡・萩原諏訪城跡周辺）	山村教授、三好・大下・石川、堀祥岳氏、高山市教育委員会押井係長・玉腰氏、下呂市教育委員会進藤氏（※高山市・下呂市担当は一部に同行）	<ul style="list-style-type: none"> ・高山市内における類例調査（高山城下町、松倉城跡、三仏城跡、鍋山城跡） ・下呂市内における類例調査（桜洞城跡・萩原諏訪城跡周辺） ・歴史地理調査総括指導。 ・対象地域の寺社勢力の変遷確認。

5 総合調査に関する事例調査及び調査成果の発表の経過

(1) 総合調査に関する事例調査

総合調査の実施にあたって、全国的な調査動向の把握と調査手法の検討に資するため、各地の城館跡に関する事例調査を以下の通り実施した。

- ・小笠原氏城館跡（長野県松本市、2017年5月）、対応：松本市教育委員会
- ・水口岡山城跡（滋賀県甲賀市、2017年5月）、対応：甲賀市教育委員会
- ・美濃金山城跡（岐阜県可児市、2017年11月）、対応：可児市教育委員会
- ・飯盛城跡（大阪府四条畷市・大東市、2018年2月）、対応：四条畷市教育委員会・大東市教育委員会
- ・佐和山城跡（滋賀県彦根市、2018年5月）、対応：彦根市教育委員会
- ・岐阜城跡（岐阜県岐阜市、2019年5月）、対応：岐阜市教育委員会
- ・南山城跡（岡山県倉敷市、2019年9月）、対応：岡山県古代吉備文化財センター
- ・岩櫃城跡（群馬県東吾妻町、2020年3月）、対応：東吾妻町教育委員会
- ・八王子城跡（東京都八王子市、2020年3月）、対応：八王子市教育委員会
- ・松倉城跡（岐阜県高山市、2020年12月）、対応：高山市教育委員会
- ・大桑城跡（岐阜県山県市、2020年12月・2021年11月）、対応：山県市教育委員会
- ・篠脇城跡（岐阜県郡上市、2020年11月・2021年12月）、対応：郡上市教育委員会
- ・根城跡（青森県八戸市、2022年6月）、対応：八戸市博物館
- ・聖寿寺館跡（青森県南部町、2022年6月）、対応：南部町教育委員会

(2) 調査成果の発表の経過

当事業は調査成果や所見を積極的に公表して意見等を総合調査の成果に反映することとし、以下の発表等で調査成果や所見を発表した。※印は「飛騨市の文化財ホームページ（<http://hida-bunka.jp>）」、「全国遺跡総覧（<https://sitereports.nabunken.go.jp>）」において公開している。

- ・『東海の名城を歩く 岐阜編』吉川弘文館、2019（大下永）
- ・「岐阜県史跡古川城跡の発掘調査発掘調査について」『飛騨市歴史文化調査室報告（第2集）』飛騨市教育委員会、2020（三好清超）（※）
- ・「明治前期の地籍図からみる武家拠点周辺の空間構造～飛騨市の事例を中心に～」『飛騨市歴史文化調査室報告（第3集）』飛騨市教育委員会、2021（大下永）（※）
- ・「城館調査における赤色立体地図の活用について～飛騨市の調査事例から～」『飛騨市歴史文化調査室報告（第3集）』飛騨市教育委員会、2021（大下永）（※）
- ・「飛騨における武家拠点の変遷と小島・東町城下町の構造」『中井均先生退職記念論集 城郭研究と考古学』サンライズ出版、2021（大下永）
- ・「姉小路氏関連遺跡で出土する中世土師器皿の編年試案」『中井均先生退職記念論集 城郭研究と考古学』サンライズ出版、2021（三好清超）
- ・「飛騨北部における武家拠点周辺地域の構造と変遷－姉小路・江馬から金森へ－」仁木宏編『戦国・織豊期の地域社会と城下町』戎光祥出版、2021（大下永）
- ・「飛騨の中世城館群－江馬氏城館跡・姉小路氏城館跡の発掘調査を中心に－」『中世城館の諸相－山頂の城と山麓の館－』考古学研究会東海例会、2022（三好清超）

6 普及事業の経過

姉小路氏城館跡の調査過程の公開を推進し、地域における遺跡の保存活用の機運を醸成するため、普及事業を積極的に実施した。

(1) 歴史講座

最新の調査成果を隨時公開し、全国的な知見に基づいて各山城跡の価値を学ぶため、平成29年(2017)度より、専門家を招聘する講演会・現地見学会を開催した。

2017年11月3日、飛騨山城セミナー第1弾「中井均先生に学ぶ！小島城跡探訪」

講師に指導委員会委員長・中井均氏をお迎えし、午前中に小島城跡を舞台とした現地見学会を実施し、午後に太江農業集落センターでの講演会を実施した。参加者、午前58名、午後70名。

2018年5月12日、飛騨市の城跡を描こう（初級編）

講師に指導委員会委員長・佐伯哲也氏をお迎えし、百足城跡において、遺構配置図の描き方を学ぶ講座を実施した。参加者7名。

2018年11月3日、飛騨山城セミナー第2弾「加藤理文先生に学ぶ！古川城跡探訪」

講師に指導委員会委員・加藤理文氏をお迎えし、午前中に古川城跡の最新の調査成果に基づく現地見学会を実施し、午後は高野公民館での講演会を実施した。参加者、午前50名、午後70名。

2019年10月19日、飛騨山城セミナー第3弾「内堀信雄先生に学ぶ！野口城跡探訪」

講師に指導委員会委員・内堀信雄氏をお迎えし、末高総合研修センターにて講演会を実施した。参加者57名。なお、午前に予定していた現地見学会は雨天により延期し、午後の講演会のみ開催とした。現地見学会は、後日発掘調査現地説明会として実施した。

2020年11月8日、飛騨山城セミナー第4弾「仁木宏先生に学ぶ！戦国飛騨のまちづくり」

講師に指導委員会副委員長・仁木宏氏をお迎えし、午前に調査成果に基づく小鷹利城跡の現地見学会を実施し、午後は飛騨の町づくりの特徴を学ぶ講座を古川町公民館にて実施した。参加者、午前43名、午後60名。

2021年12月26日、飛騨山城セミナー第5弾「山村亜希先生とめぐる飛騨の城下町」（オンライン）

講師に歴史地理調査の指導を受けている京都大学大学院教授・山村亜希氏をお迎えし、飛騨市学芸員とともに飛騨の城下町（高山・増島城下町）をオンライン（YouTubeライブ配信）でめぐるツアーワークshopを実施した。総視聴者数260名、同時視聴者数最大68名、チャットメッセージ35件。

(2) 姉小路氏城館跡に係る職員派遣等

学校や地元団体等の依頼に基づき、姉小路氏城館跡に関する現地見学・講演会の職員派遣を行った。

2019年

4月23日 飛騨市食生活改善連絡協議会、講演50名。「山城もすごい！！飛騨の歴史研究最前線」。

4月24日 こくふ歴まちネット / 国府史学会、小島城跡案内30名。

6月23日 古川町24区自治会、小島城跡に関する解説、50名。

8月3日 太江朗寿会、講演50名。小島城跡の調査成果を講演「太江の歴史調査最前線」。

8月20日 大学生インターンシップ1名、整理業職場体験。

9月25日 市立古川中学校2名、整理作業職場体験。

10月8日 市立河合小学校4～6年生25名、小鷹利城跡の発掘調査現場見学。

2020年

- 7月17日 市立古川小学校6年生出前授業3クラス。山城を含む地元の歴史についての授業。
- 8月13日 市立古川小学校6年生出前授業3クラス。前回の授業を経て児童との質疑応答。
- 10月24日 岐阜県発掘調査報告会で報告。「飛驒国司姉小路氏城館跡の発掘調査について」。
主催：岐阜県文化財保護センター 場所：岐阜県図書館、60名。
- 11月27日 市立古川西小学校5年生出前授業2クラス、小島城跡について。

2021年

- 5月2日 飛驒考古学会、古川城跡・小島城跡にて意見交換。
- 5月18日 市立古川小学校6年生出前授業2クラス。山城を含む地元の歴史についての授業。
- 6月2日 市立古川小学校6年生課外授業2クラス。百足城跡の現地見学。
- 7月14日 市立古川小学校6年生出前授業2クラス。2回の授業を経て児童生徒との質疑応答。
- 7月31日 岐阜関ヶ原古戦場記念館との連携企画で報告。
場所：関ヶ原町歴史民俗学習館、40名。「飛驒の山城調査最前線！」。

(3) 情報発信

総合調査と並行して姉小路氏城館跡に関する情報や最新の調査成果を発信するため、紙媒体やホームページ、SNS・動画配信サイトを用いた多角的な情報発信を実施している。現在は「飛驒市の文化財」ホームページを親ページとして位置付け、各SNS等は随時発信のツールとして関連付けている。

2017年

- 6月、飛驒市の文化財フェイスブックページ開設。
- 9月、各山城跡の解説パンフレット・飛驒市山城マップ（姉小路編）を作成。市内施設で配布開始。

2018年

- 1月、「飛驒市の文化財」ホームページ開設。飛驒市の文化財・文化施設を紹介。
発掘調査現地説明会資料、飛驒山城セミナーの講演記録、山城復元イラスト等の閲覧利用可能。
- 2月、小島城跡推定復元イラスト作成。ホームページで公開。
- 3月、歴史講座「中井均先生に学ぶ！小島城跡探訪」の記録をホームページで公開。
- 9～12月、古川城跡・小島城跡の発掘調査進捗情報をフェイスブックで随時発信。

2019年

- 1月、広報ひだに特集記事「飛驒国司姉小路氏城館跡の発掘調査はじまる」を掲載。
- 4月、飛驒市の文化財インスタグラム公式アカウントの開設。
飛驒市の文化財YouTubeチャンネルの開設。調査成果をまとめた動画を公開開始。
- 5月、歴史講座「加藤理文先生に学ぶ！古川城跡探訪」の記録をホームページで公開。
- 6月、「古川城跡の発掘調査」動画をYouTube（飛驒市の文化財チャンネル）に公開（2022/3/31時点の視聴数1042回）。「小島城跡の発掘調査」動画をYouTube（飛驒市の文化財チャンネル）に公開（2022/3/31時点の視聴数925回）。
- 8～11月、野口城跡・小鷹利城跡・向小島城跡の発掘調査進捗情報をフェイスブック等で随時発信。
- 11月、全国山城サミット可児大会に出展。飛驒市の城跡や調査成果に関する発信を行った。
- 12月、広報ひだに特集記事「飛驒国司姉小路氏城館跡の発掘調査速報」を掲載。

2020年

- 2月、古川城跡推定復元イラスト作成。ホームページで公開。
- 3月、歴史講座「内堀信雄先生に学ぶ！野口城跡探訪」の記録をホームページで公開。
- 4月、「野口城跡の発掘調査」動画をYouTube（飛驒市の文化財チャンネル）に公開（2022/3/31時点の視聴数494回）。「向小島城跡の発掘調査」動画をYouTube（飛驒市の文化財チャンネル）に公開（2022/3/31時点の視聴数521回）。「小鷹利城跡の発掘調査」動画をYouTube（飛驒市の文化財チャンネル）に公開（2022/3/31時点の視聴数3629回）。
- 4月～、広報ひだに1年間「文化の窓」と題した文化財紹介の記事掲載。
- 11月、飛驒市長のオンライン市政報告「ほっとライブひだ」で「飛驒市の文化財『城』」動画をYouTube（飛驒市公式YouTubeチャンネル）に公開（2022/3/31時点の視聴数319回）。
- 11～12月、古川城跡の発掘調査進捗情報をフェイスブック等で隨時発信。

2021年

- 3月、小鷹利城跡（向氏段階・最終段階）・野口城跡推定復元イラスト作成し、ホームページで公開。「古川城跡の発掘調査2020」動画をYouTube（飛驒市の文化財チャンネル）に公開（2022/3/31時点の視聴数395回）。
- 4月、歴史講座「仁木宏先生に学ぶ！戦国飛驒のまちづくり」の記録をホームページで公開。
- 5月、飛驒市の文化財ツイッターアカウントを開設。
フェイスブック・インスタグラムとも、コメントがあった際には必要に応じて返信可とした。
- 9月、イラスト集『ワイド&パノラマ鳥瞰・復元イラスト戦国の城』（香川元太郎著、ワンパブリッシング）に小島城、古川城、小鷹利城、野口城が掲載（市学芸員解説執筆）。
- 12月、向小島城跡復元イラスト作成、小島城跡復元イラスト（2018年作成）を最新の調査成果に基づいて修正。ホームページで公開。

2022年

- 1月、「山村亜希先生とめぐる飛驒の城下町」の配信アーカイブ動画をYouTube（飛驒市公式チャンネル）に公開（2022/3/31時点の視聴数413回）。オンラインイベント当時に放映したまち歩き動画4本をYouTube（飛驒市の文化財チャンネル）に公開。
- 1～4月、整理作業の進捗状況をフェイスブック等で隨時発信。

7 環境整備

解説サイン 歴史講座開催に併せて現地に説明板を設置した。2017年に小島城跡、2018年に古川城跡、2019年に野口城跡、2020年に小鷹利城跡、2021年に向小島城跡に設置した。

案内誘導サイン 2021年より小島城址公園整備委員会・太江区のご厚意により、太江農業センター駐車場が小島城跡訪問者用の駐車場として開放された。これを機に、駐車場を明示する看板、駐車場から登山口までのサイン等を設置した。なお、2022年には小鷹利城跡において、黒内グラウンドの駐車スペースから登山口までのサインを設置する計画である。

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

飛驒市は岐阜県最北端に位置し、北は富山県と県境を接し、南と東は高山市、西は白川村と接する。平成16年（2004）2月に古川町・河合村・宮川村・神岡町の2町2村が合併し誕生した。人口は約23,000人、面積は792.31km²である。周囲は3,000mを越える北アルプスや飛驒山脈などの山々に囲まれ、市域の約92%は山地・森林である。山々の間には小河川や支谷が形成され、宮川や高原川などに注ぐ。これら河川が深いV字谷を刻みながら浸食により幾階層もの河岸段丘を形成している。市内の平地は姉小路氏城館跡が位置する飛驒市古川町から高山市国府町に広がる古川・国府盆地や神岡町の市街地を中心とした地域でみられる。

盆地を取り囲む山地は、船津花崗岩類や手取層、濃飛流紋岩により形成される。船津花崗岩類は盆地の北側に広がる。手取層は礫岩・砂岩・頁岩等からなり、盆地の南側において宮川を東西に横切るように分布する。濃飛流紋岩は、大規模な火山活動によって形成された火碎流の堆積物であり、溶結凝灰岩である。岐阜県の3分の1に及ぶ広大な範囲に分布しており、盆地に広がっている。

姉小路氏城館跡は飛驒市古川町・河合町の2町に所在する。古川町の中央部には古川盆地があり、南側の国府盆地と接する。北側の山間部に河合町や宮川町が位置する。姉小路氏の支配領域としては河合町や宮川町といった古川盆地の周辺地域まで含まれ、姉小路氏城館跡は古川盆地を取り囲む山上に位置する。宮川は高山盆地から、荒城川は高山市国府町の通称荒城谷から流れる。古川町では盆地のやや西寄りを北西から南東へ宮川が貫流する。さらに盆地の東側にはその支流の荒城川が流れ、盆地の中央付近で宮川と合流する。また、古川盆地の北端で向小島城跡の西側を流れる殿川と合流する。河合町では北側に小鳥川、中央から東寄りに稻越川が流れる。小鳥川は河合町と宮川町の境で稻越川と合流し、その直後に宮川へ流れ込む。宮川町では町内をほぼ縦断する形で宮川が南から北へ流れている。その河川に沿って小規模な河岸段丘が形成され、その河岸段丘上に集落が立地する。

第2節 歴史的環境

1 縄文時代

盆地内の麓に広がる上位段丘上には縄文時代の遺跡が多く分布している。これまで古川町内で発掘調査された縄文時代の遺跡には、岡前遺跡（8）、御番屋敷遺跡（9）、黒内細野遺跡（6）、中野山越遺跡（21）、沢遺跡（10）などがある。最も古い遺跡は沢遺跡（10）である。古川町上気多字沢に所在する。昭和39年（1964）の予備調査に続き、昭和42・61年（1967・1986）の2次にわたり調査が行われ、竪穴建物跡や土坑などを発見している（大野政雄・佐藤達夫 1967、飛驒市教育委員会 2017a）。縄文時代早期前葉の「沢式土器」の標識遺跡として知られており、調査範囲は昭和63年（1988）に飛驒市史跡として指定された。最も多くの竪穴建物跡を確認したのは中野山越遺跡（21）である。古川町中野字山越に所在し、昭和51～54年（1976～1979）に発掘調査が行われ、縄文中期から晩期にかけて32軒の竪穴建物跡を確認した（中野山越遺跡発掘調査団 1993）。昭和63年（1988）には調査範囲が飛驒市史跡として指定されている。

また、出土遺物のうち土器・土製品・石器・石製品 362 点が、平成 8 年（1996）に国の重要文化財の指定を受けた。岡前遺跡（8）は盆地の北西に位置する遺跡で、岐阜県文化財保護センターにより発掘調査が実施され、縄文中期後半を中心とする堅穴建物跡が 8 軒調査されている（財団法人岐阜県文化財保護センター 1995）。黒内細野遺跡（6）は古川町黒内字細野に所在する遺跡で、平成 10 年（1998）に町道建設に伴い調査を行った（飛騨市教育委員会 2014）。縄文中期から後期の堅穴建物跡 5 軒と多数の土坑を発見している。御番屋敷遺跡（9）は昭和 29 年（1954）に開田工事の際に縄文時代中期の堅穴建物跡を発見し、昭和 34 年（1959）に「御番屋敷先史時代住居跡」として岐阜県史跡に指定された。高山市国府町域では、荒城川沿いに森ノ木遺跡（12）・立石遺跡（15）・荒城神社遺跡（11）が分布し、高山盆地にかけては村山遺跡（13）が分布する。村山遺跡（13）は飛騨地域で最初に発掘調査報告書が出された学史上重要な遺跡である（大野政雄ほか 1960）。上町遺跡（67）では遺構の確認はないものの、縄文土器・石器の散布が認められる（上町遺跡トヨタ地点・0 地点・栗原センター地点発掘調査団 1994、上町遺跡 C 地点発掘調査団 1989、飛騨市教育委員会 2018e）。

2 弥生時代

古川町内では弥生時代の遺跡は少ない。発掘調査で遺構を検出した遺跡には中野大洞平遺跡（7）がある。古川町中野字大洞平に所在し、農道整備に伴い岐阜県文化財保護センターにより発掘調査が行われた（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006・2007）。弥生時代後期の堅穴建物跡 4 軒、弥生時代後期の方形周溝墓 1 基が調査されている。遺物では弥生中期後半の横羽状文甕等が出土している。また、杉崎廃寺跡（73）の中枢部において横羽状文甕や北陸系の弥生土器が出土した（杉崎廃寺跡発掘調査団 1998）。国府町では立石遺跡（15）・半田垣内遺跡（16）で遺物が出土する（国府町教育委員会 1993a、国府町史刊行委員会 2007・2011）。さらに、深沼遺跡（75）では飛騨地域で初めて水田遺構を確認された（財団法人岐阜県文化財保護センター 1992）。それが弥生時代に遡るとの見解もある（国府町史刊行委員会 2011）。上町遺跡向町地点では弥生時代末の堅穴建物跡を確認している（飛騨市教育委員会 2013）。

3 古墳時代

宮川の河岸段丘上を中心に、古川町から国府町にかけて古墳が点在している。前期の遺跡は少なく、上町遺跡（67）と中野大洞平遺跡（7）で方形周溝墓を調査している（上町遺跡 C 地点発掘調査団 1991、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006・2007）。前方後円墳では 6 世紀前半と考えられる信包八幡神社跡前方後円墳（42）がある。宮川左岸の段丘端部に位置し、全長 64.2 m、前方部の最大幅は 38 m を有する（八賀晋 2004）。埋葬施設は横穴式石室で、奥壁には巨石を上下二段に積み、側壁は割石や扁平な自然石による小口積みである。金銅製の馬具類等が出土している。巨大な切石を用いた横穴式石室として、高野水上古墳（56）や高野光泉寺古墳（57）、大洞平第 1・2 号墳（47）などがある。墳形は前者 2 つは円墳で後者 2 つは方墳である。また、国府町には前方後円墳として県内最大級の横穴室石室を持つこう峠口古墳（63）や、三日町大塚古墳（61）がある。さらに古川・国府盆地の南端には亀塚古墳（66）があった。大正期に取り壊されたが大型円墳であったと考えられており、甲冑の出土が注目されている（国府町史刊行委員会 2007）。高山盆地では前方後円墳が確認されていないため、古墳時代の主体は古川・国府盆地であったと考えられる。上町遺跡の南側には、遺跡を見下ろすように方墳の海具江古墳（59）がある。集落跡については、上町遺跡（67）の調査において古墳後期の堅穴建物跡や掘立柱建物跡を検出した

(上町遺跡金子・氷見地点発掘調査団 2001、上町遺跡 C 地点発掘調査団 1989・1991、上町遺跡トヨタ地点・0 地点・栗原センター地点発掘調査団 1994、飛驒市教育委員会 2013・2016)。また、太江遺跡 (67) では後期の堅穴建物跡や溝跡を確認している(財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2005、財団法人岐阜県文化財保護センター 2002)。杉崎廃寺跡 (73) では中期の堅穴建物跡を確認している(杉崎廃寺跡発掘調査団 1998)。

4 古代

古代の集落跡は、上町遺跡 (67) や岡前遺跡 (8)、中野大洞平遺跡 (7) などで堅穴建物跡や掘立柱建物跡が見つかっている(上町遺跡金子・氷見地点発掘調査団 2001、上町遺跡 C 地点発掘調査団 1989・1991、上町遺跡トヨタ地点・0 地点・栗原センター地点発掘調査団 1994、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006、財団法人岐阜県文化財保護センター 1995、飛驒市教育委員会 2013・2016・2018a)。上町遺跡 (67) は市内で最大規模の集落跡であり、古川盆地の南に位置する。上町遺跡 (67) では令和 3 年時点で大小合わせ 66 次調査まで行い、139 軒の堅穴建物跡や 49 棟の掘立柱建物跡を確認している。そのことから古代の飛驒において中心的な役割を担った遺跡である可能性が高い。

岡前遺跡 (8) では飛驒地方で初となる「和同開珎」が出土する(財団法人岐阜県文化財保護センター 1995)。飛驒地域の古代を特長付けるのが古代寺院である。古川・国府盆地内における古代寺院については、古川町域では杉崎廃寺跡 (73)、寿楽寺廃寺跡 (76)・沢廃寺跡 (77)・古町廃寺跡 (78)・上町廃寺跡 (79) がある。国府町域内では塔ノ腰廃寺跡(大日廃寺跡) (80)・堂前廃寺跡 (81)・安国寺廃寺跡 (82)・石橋廃寺跡 (83)・光寿庵跡 (84)・名張廃寺跡 (85) があり、合わせて 11ヶ寺を数える(国府町史刊行委員会 2007)。瓦散布地全てを古代寺院とするかの判断は難しいが、高山盆地の飛驒国分寺・飛驒国分尼寺・三仏寺廃寺跡・東光寺跡・大幢寺跡の 5ヶ寺に比べ、飛驒における古代寺院造営の主体は古川・国府盆地であったことが想定される。古川・国府盆地の古代寺院のうち発掘調査が行われたのは杉崎廃寺跡 (73)、寿楽寺廃寺跡 (76)、古町廃寺跡 (78)、石橋廃寺跡 (83) である(上町遺跡 C 地点発掘調査団 1991、国府町教育委員会 2005、財団法人岐阜県文化財保護センター 2002、杉崎廃寺跡発掘調査団 1998)。

杉崎廃寺跡 (73) は、伽藍中枢部が調査された唯一の事例である(杉崎廃寺跡発掘調査団 1998)。礎敷きに金堂・塔・講堂・鐘楼が配置された法起寺式伽藍であった。寿楽寺廃寺跡 (76) では講堂跡とそれに取り付く回廊跡が検出されている。遺物は「高家寺」と墨書された須恵器が注目される他、鷦尾・塑像・蹄脚硯・三足火舎などの寺院に関わるものが多く出土している(財団法人岐阜県文化財保護センター 2002)。創建時の瓦は、3km ほど西へ離れた信包中原田古窯跡 (86) で生産された。

上町遺跡には古町廃寺跡 (78)・上町廃寺跡 (79)・塔ノ腰廃寺跡 (80) が含まれる。これらで出土する軒丸瓦の文様は共通し、上町廃寺跡・塔ノ腰廃寺跡には瓜巣釜洞古窯跡 (89) から、古町廃寺跡には芦谷古窯跡(丸山古窯跡) (88) から供給されたと推定される(上町遺跡 C 地点発掘調査団 1991、三好清超 2019b)。

平安期の遺構としては、西ヶ洞廃寺跡 (74) において鍛冶関連遺構が確認されている(財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006)。他にも「十能寺」と線刻された須恵器や灰釉陶器が採集されており、山林寺院跡としての可能性が指摘されている。上町遺跡 (67)・中野山越遺跡 (21)・岡前遺跡 (8)・太江遺跡 (68) では平安時代の堅穴建物跡が調査されている(財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2005、財団法人岐阜県文化財保護センター 1995・2002、中野山越遺跡発掘調査団 1993、上町

遺跡C地点発掘調査団 1991)。しかし、遺構数は激減するため、平安時代には高山盆地に飛驒の中心地が移ったものと考えられる。

5 中世・近世

古川・国府盆地では宮川や街道沿いの山上に中世城館跡が集中している。高山市国府町には広瀬城跡（117）や梨打城跡（108）、高堂城跡（119）等の中世城館が点在する。特に広瀬城跡は高山市内でも大規模な山城跡である。古川盆地には中世遺物が含まれる散布地が点在し、街道沿いに城館跡が位置する。特に古川城跡（1）、小島城跡（2）、小鷹利城跡（4）、向小島城跡（5）の4城は飛驒国司であつた姉小路氏の居城と伝わる。野口城跡（3）は明確な資料は確認できないが、縄張りや遺構の状況から同様に姉小路氏の城館であった可能性が高いと考えられる。

古川城跡（1）の東側の盆地には上町遺跡（67）がある。中世の堅穴住居跡や中近世の堅穴状遺構、土坑を検出している（上町遺跡金子・氷見地点発掘調査団 2001、上町遺跡C地点発掘調査団 1991、上町遺跡トヨタ地点・0地点・栗原センター地点発掘調査団 1994、飛驒市教育委員会 2013・2016）。遺物は舶来品の白磁碗や錢貨等、12世紀から18世紀の中近世遺物を確認している。上町遺跡D地点では、確認した道路状遺構では中世のかわらけや天目茶碗が出土し、後述する古川城跡の出土遺物との類似がみられる（上町遺跡C地点発掘調査団 1991）。また、12世紀から16世紀の遺物が出土していることから、中世の土地利用が確認できる。

古川城跡から1kmほど北の山上に中世の山城跡である百足城跡（102）がある。『飛州志』でも記載がみられ（岡村利平 1909）、古くから城として認識されていた。城主や築城年代は不明だが、古川城跡との距離は1kmほどで古川城の支城であったと考えられる（飛驒市教育委員会 2019a）。2017年度に実施した発掘調査で石垣を確認した（飛驒市教育委員会 2017b）。百足城跡からさらに1.1km北西へ進むと落岩城跡（101）がある。落岩城跡は『斐太後風土記』では「古城あり」と記され、古くから城として認識されてきた（蘆田伊人 1968）。岐阜県の調査で主郭や切岸が確認されているが、古墳であった可能性が指摘されている（岐阜県教育委員会 2005）。当市の踏査でくぼみを7ヶ所確認し、古墳に関連する可能性がある（飛驒市教育委員会 2019a）。落岩城跡から500m北西には、中世遺物等が散布する上野上野東遺跡（22）がある（飛驒市教育委員会 2018d）。

古川盆地の北側の古川町杉崎には姉小路氏の館跡と推定される岡前館跡（98）が所在する。地籍図による調査に基づき、水路で囲まれた範囲が城館跡として登録されている。北東の諏訪神社の近くには姉小路氏の墓と伝わる五輪塔が存在する。岡前館跡の周辺には袈裟丸祖父あん遺跡（97）や岡前奥御堂跡（96）が位置している。袈裟丸祖父あん遺跡は中世遺物等が疎らに散布している（飛驒市教育委員会 2019a）。岡前奥御堂跡は中世の社寺跡であり、『斐太後風土記』によれば、宮谷寺の境内にあたり小島氏衰退の後に廃れたとされている（蘆田伊人 1968）。

小島城跡（2）から同じ尾根伝いに1.1km東へ離れた位置に中世の山城跡である下北城跡（100）がある。主郭の東側には堀切が設けられているが、小島城跡側には防御遺構が認められない。このため、小島城跡との関係性が想定される（岐阜県教育委員会 2005）。小島城跡（2）から盆地を挟んで西側の盆地に突き出た山稜の山頂に池之山城跡（99）がある。池之山城跡（99）では尾根の東西に曲輪が位置し、複数の堀切が設けられている（飛驒市教育委員会 2019a）。野口城跡（3）、小島城跡（2）を含む盆地全体を見渡すことができ、向小島城跡（5）との距離が1.6kmしかないことから姉小路氏の山城とされる

(岐阜県教育委員会 2005)。小島城跡（2）の北側集落には太江遺跡（68）や中世遺物等が散布する杉崎北野遺跡（18）がある（飛驒市教育委員会 2018d）。また、周辺の中世遺物等の散布地として、太江集落から神岡町方面へ至る街道沿いに太江上番場遺跡（19）、小島城跡南側の集落に沼町川原遺跡（70）がある。

向小島城跡（5）から殿川を挟んだ向かい側の山頂の平坦に城見寺城跡（103）がある。『古川町史史料編三』に所載される「明治十年小鷹利村地誌」に「城見廃寺跡」とあり、古くから寺と認識されていた（古川町 1986a）。堀切や虎口が残っていることから中世城館の可能性が高いと推定されている（岐阜県教育委員会 2005）。また、白川郷方面から古川盆地を通る街道を見下ろし、向小島城跡（5）と相対しているため、立地上重要な山城であったと想定されている（飛驒市教育委員会 2019a）。

小鷹利城跡（4）から東へ下ると黒内古屋敷遺跡（95）がある。現在はグラウンドの一部になっているが、過去に須恵器や中世の土師器皿等といった遺物を採集している（飛驒市教育委員会 2019a）。小鷹利城跡（4）の北側にそびえる本堂山の山頂には本堂山城跡（104）があり、古川方面を見渡すことができる。『古川町史史料編三』の「明治十年細江村地誌」によれば「城山」と呼ばれていた（古川町 1986a）。曲輪などのほかに主郭から延びる三方向の尾根には複数の堀切が設けられている（岐阜県教育委員会 2005）。

増島城跡（105）は古川町片原町に所在する平城である。金森長近が天正 13 年（1585）に飛驒に侵攻した後に築城され、養子の可重に治めさせたとされる。平成 9・16・17・20～21 年（1997・2004・2005・2008～2009）と 4 次にわたる発掘調査を行い、石垣・堀・曲輪などの状況が明らかになった（飛驒市教育委員会 2010a）。天守櫓台は昭和 34 年（1959）岐阜県史跡に指定されている。

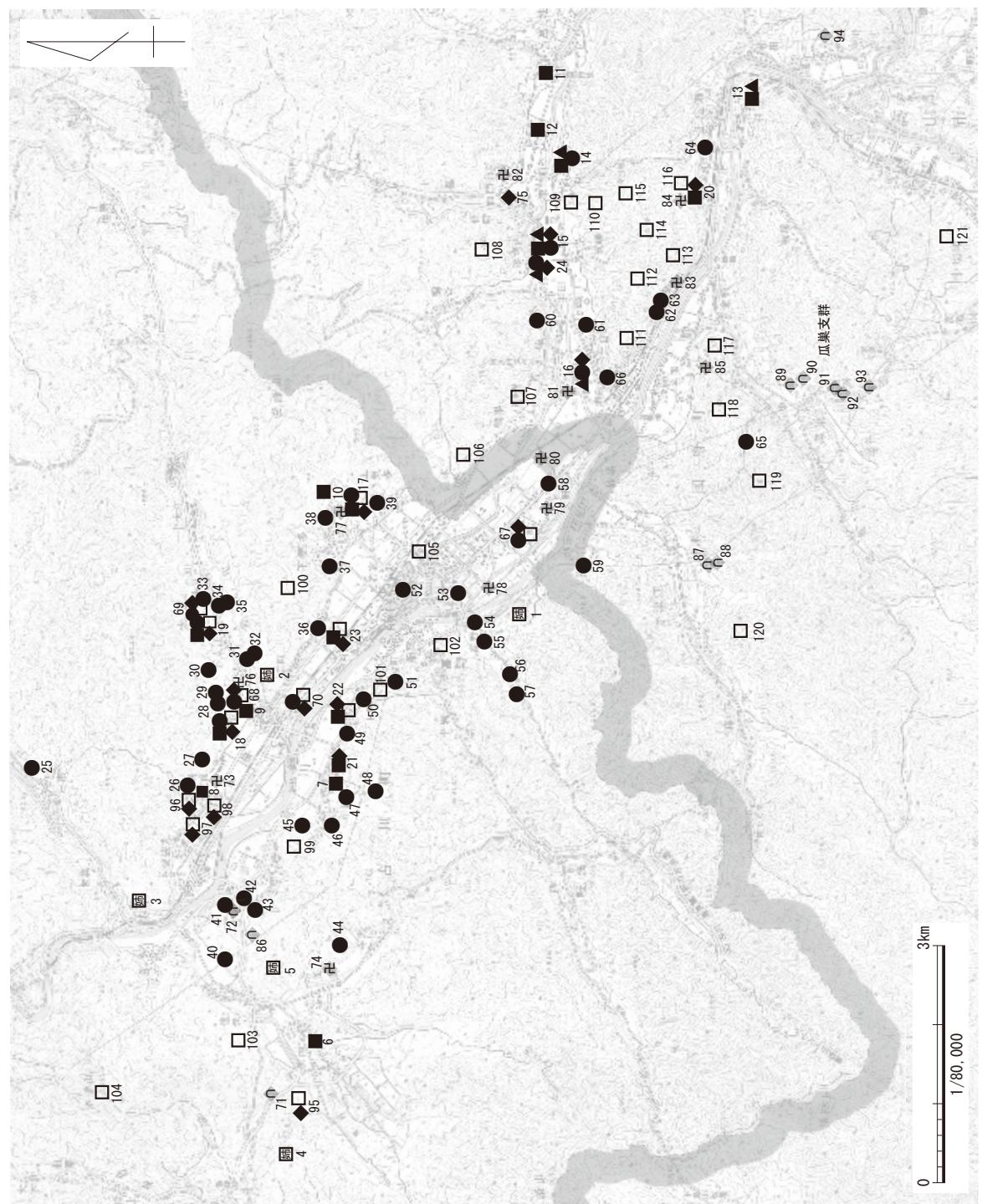
市内に所在する他の城館跡についても記述する。河合町には城館の候補地と考えられている角川砦跡がある。小規模ながら虎口や土塁が残るが、昭和 30 年頃まで火葬場があり改変されているため検討の余地が残ると指摘されている（佐伯哲也 2018）。宮川町西忍には忍城跡がある。麓の西忍集落と越中をつなぐ山道が隣接し、その往来を監視する城郭と考えられている（佐伯哲也 2018）。単純な縄張りであり、城郭の南側に虎口、東側に横堀、曲輪内に土塁が確認されている。古川盆地から北東に位置する神岡町には江馬氏城館跡がある。下館跡と 6 城の山城群からなり、昭和 55 年（1980）年に国史跡に指定された。昭和 48 年（1973）から複数回行った発掘調査では会所と推定している礎石建物跡や庭園跡等の遺構が確認され、中世の遺物が 5800 点以上出土している（神岡町教育委員会 1979・1998・2001、神岡町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室 1995・1996・1997、飛驒市教育委員会 2010b・2020）。平成 29 年（2017）には庭園及び会所が国名勝に指定された。戦国時代になると飛驒の支配をめぐり姉小路氏の名跡を継いだ三木氏は江馬氏と争っていくことになる。天正 10 年（1582）の八日町の戦いの後、小島時光が三木方として江馬氏の本城である高原諏訪城を攻め、落城させた。この時に持ち帰ったとする大般若経が古川町太江の寿楽寺に伝わっており、岐阜県重要文化財に指定されている。

6 小結

飛驒市古川町から高山市国府町にかけて、宮川に沿って形成された盆地内の段丘上や微高地上に多くの遺跡を確認している（第 2 図・第 8・9 表）。特に古墳や古代寺院推定地が数多く分布し、縄文時代から連綿と人々の暮らしが営まれていたことを示している。古川盆地は古代より飛驒の中心地の一つとして発展していったと考えられる。

中世になると古川町や神岡町を中心に、集落遺跡に加えて盆地を取り囲む山々に城館跡が点在するようになる。特に姉小路氏城館跡はそれぞれ盆地の端や街道沿いに位置し、古川盆地への敵の侵入を防ぐ

ように配置されていたことが見てとれる。城館跡が集中するということは、中世の古川盆地ではその支配をめぐる争いがあったことを示している。また、支城と考えられる小規模な城館跡も確認できる。城館跡以外で中世の遺構が確認されている遺跡は少ないが、姉小路氏城館跡の麓には中世以前より継続して存在する遺跡がある。これらは近い距離に位置するため、何らかの関連性が想定できる。



第2図 姉小路氏跡館跡と周辺の遺跡分布図

凡例

- 繩文時代
- ▲ 弓生時代
- 古墳時代
- ◆ 古代
- ▲ 寺院
- ◆ 黒
- 中近世

第8表 姉小路氏城館跡と周辺の主な遺跡一覧（1）

番号	遺跡名	所在地	種別	時代	備考
1	古川城跡	古川町高野	城館跡	室町	姉小路氏城館跡
2	小島城跡	古川町沼町	城館跡	室町	姉小路氏城館跡
3	野口城跡	古川町大字野口	城館跡	室町	姉小路氏城館跡
4	小鷹利城跡	河合町稻越・古川町黒内	城館跡	室町	姉小路氏城館跡
5	向小島城跡	古川町笛ヶ洞	城館跡	室町	姉小路氏城館跡
6	黒内細野遺跡	古川町黒内	散布地	縄文	
7	中野大洞平遺跡	古川町中野	散布地	縄文	
8	岡前遺跡	古川町杉崎	散布地	縄文	
9	御番屋敷遺跡	古川町太江	集落跡	縄文	岐阜県史跡
10	沢遺跡	古川町上気多	集落跡	縄文	飛騨市史跡
11	荒城神社遺跡	国府町宮地	散布地	縄文	岐阜県史跡
12	森ノ木遺跡	国府町東門前	集落跡	縄文	
13	村山遺跡	国府町上広瀬	集落跡	縄文・弥生	一部岐阜県史跡
14	南垣内遺跡	国府町今	散布地	縄文～古墳	
15	立石遺跡	国府町漆垣内	散布地	縄文～古代	
16	半田垣内遺跡	国府町三日町	集落跡	縄文・古墳・古代	
17	上気多上野遺跡	古川町上気多	散布地	縄文・古墳・奈良・平安・中世	
18	杉崎北野遺跡	古川町杉崎	散布地	縄文・古墳・古代・中世	
19	太江上番場遺跡	古川町太江	散布地	縄文・古墳・古代・中世	
20	宮ノ下遺跡	国府町上広瀬	集落跡	縄文・古代	
21	中野山越遺跡	古川町中野	集落跡	縄文・古代	飛騨市史跡
22	上野上野東遺跡	古川町上野	散布地	縄文・古代・中世	
23	下気多川原遺跡	古川町上気多	散布地	縄文・古代・中世	
24	桜本遺跡	国府町漆垣内	散布地	弥生～古代	
25	戸市古屋敷古墳	古川町戸市	古墳	古墳	2基
26	岡前諏訪神社裏古墳	古川町杉崎	古墳	古墳	2基
27	杉崎狐洞古墳	古川町杉崎	古墳	古墳	10基
28	稻荷神社古墳	古川町杉崎	古墳	古墳	3基
29	太江多度古墳	古川町太江	古墳	古墳	9基
30	太江前平古墳	古川町太江	古墳	古墳	3基
31	太江中ヶ野古墳	古川町太江	古墳	古墳	6基
32	沼町天王洞古墳	古川町沼町	古墳	古墳	
33	太江福藏古墳	古川町太江	古墳	古墳	2基
34	太江灰古墳	古川町太江	古墳	古墳	
35	太江中日影古墳	古川町太江	古墳	古墳	
36	種村古墳	古川町下気多	古墳	古墳	
37	小坂神社跡古墳	古川町下気多	古墳	古墳	
38	上気多沢古墳	古川町上気多	古墳	古墳	3基
39	上気多古墳	古川町上気多	古墳	古墳	
40	丸山古墳	古川町信包	古墳	古墳	
41	羽根坂古墳	古川町下野	古墳	古墳	6基
42	信包八幡神社跡前方後円墳	古川町信包	古墳	古墳	岐阜県史跡
43	八幡古墳	古川町信包	古墳	古墳	
44	寺地西ヶ洞古墳	古川町寺地	古墳	古墳	5基
45	中野宮田古墳	古川町中野	古墳	古墳	
46	中野祢宜ヶ洞古墳	古川町中野	古墳	古墳	
47	大洞平古墳	古川町中野	古墳	古墳	5基
48	中野山越古墳	古川町中野	古墳	古墳	12基
49	上野水上洞古墳	古川町上野	古墳	古墳	17基
50	上野井西古墳	古川町上野	古墳	古墳	23基
51	上野城山古墳	古川町上野	古墳	古墳	6基
52	中気多三塚古墳	古川町毫之町	古墳	古墳	3基
53	五阿弥塚古墳	古川町向町	古墳	古墳	
54	高野巾ノ上古墳	古川町高野	古墳	古墳	
55	高野溝添古墳	古川町高野	古墳	古墳	
56	高野水上古墳	古川町高野	古墳	古墳	岐阜県史跡
57	高野光泉寺古墳	古川町高野	古墳	古墳	岐阜県史跡
58	上町三塚古墳	古川町上町	古墳	古墳	3基
59	海具江古墳	国府町宇津江	古墳	古墳	高山市史跡
60	稗洞古墳	国府町半田	古墳	古墳	
61	三日町大塚古墳	国府町三日町	古墳	古墳	
62	広瀬古墳	国府町広瀬町	古墳	古墳	高山市史跡
63	こう峠口古墳	国府町広瀬町	古墳	古墳	岐阜県史跡
64	洞ノ口古墳	国府町上広瀬	古墳	古墳	2基、1号墳高山市史跡
65	かうと洞古墳	国府町瓜巣	古墳	古墳	
66	亀塚古墳	国府町広瀬町	古墳	その他の墓	
67	上町遺跡	古川町上町	集落跡	古墳・古代・鎌倉	
68	太江遺跡	古川町太江	集落跡	古墳・古代・中世	
69	太江上番場東遺跡	古川町太江	散布地	古墳・古代・中世	
70	沼町川原遺跡	古川町沼町	散布地	古墳・古代・中世	

第9表 姉小路氏城館跡と周辺の主な遺跡一覧（2）

番号	遺跡名	所在地	種別	時代	備考
71	信包塙屋古窯跡	古川町信包	生産遺跡	奈良	須恵器
72	下野羽根坂古窯跡	古川町下野	生産遺跡	奈良	須恵器
73	杉崎廃寺跡	古川町杉崎	社寺跡	平安	一部岐阜県史跡
74	西ヶ洞廃寺跡	古川町寺地	社寺跡	平安	
75	深沼遺跡	国府町東門	散布地	古代	
76	寿楽寺廃寺跡	古川町太江	社寺跡	古代	
77	沢廃寺跡	古川町上氣多	社寺跡	古代	
78	古町廃寺跡	古川町字古町	社寺跡	古代	
79	上町廃寺跡	古川町上町	社寺跡	古代	
80	塔ノ腰廃寺跡（大日廃寺跡）	高山市広瀬町	社寺跡	古代	
81	堂前廃寺跡	国府町木曾垣内	社寺跡	古代	
82	安国寺廃寺跡	国府町八日町	社寺跡	古代	
83	石橋廃寺跡	国府町広瀬町	社寺跡	古代	
84	光寿庵跡	国府町上広瀬	社寺跡	古代	高山市史跡
85	名張廃寺跡	国府町名張	社寺跡	古代	
86	信包中原田古窯跡	古川町信包	生産遺跡	古代	瓦陶兼
87	小手ヶ洞古窯跡	国府町宇津江	生産遺跡	古代	2基、須恵器
88	芦谷古窯跡（丸山古窯跡）	国府町宇津江	生産遺跡	古代	瓦陶兼
89	瓜巣釜洞古窯跡	国府町瓜巣	生産遺跡	古代	2基、須恵器
90	瓜巣大洞古窯跡	国府町瓜巣	生産遺跡	古代	2基、須恵器
91	瓜巣中島古窯跡	国府町瓜巣	生産遺跡	古代	須恵器
92	瓜巣小坂古窯跡	国府町瓜巣	生産遺跡	古代	須恵器
93	瓜巣わせ洞古窯跡	国府町瓜巣	生産遺跡	古代	須恵器
94	大畑古窯跡	国府町三川	生産遺跡	古代	須恵器
95	黒内古手敷遺跡	古川町黒内	散布地	古代・中世	
96	岡前奥御堂跡	古川町杉崎	散布地	古代・中世	
97	袈裟丸祖父あん遺跡	古川町袈裟丸	散布地	古代・中世	
98	岡前館跡	古川町袈裟丸・杉崎	散布地	古代・中世	
99	池之山城跡	古川町下野	城館跡	室町	
100	下北城跡	古川町下氣多	城館跡	室町	
101	落岩城跡	古川町上野	城館跡	室町	
102	百足城跡	古川町高野	城館跡	室町	
103	城見寺城跡	古川町信包	城館跡	中世	
104	本堂山城跡	古川町谷・河合町小無雁	城館跡	中世	
105	増島城跡	古川町殿町	城館跡	中世	一部岐阜県史跡
106	平城跡	国府町山本	城館跡	中世	
107	大洞砦跡	国府町鶴巣	城館跡	中世	
108	梨内城跡	国府町八日町・漆垣内	城館跡	中世	高山市史跡
109	蓑輪黒洞城跡	国府町蓑輪	城館跡	中世	
110	白米城跡（蓑輪城跡）	国府町蓑輪	城館跡	中世	
111	山崎城跡	国府町広瀬町	城館跡	中世	
112	中山城跡	国府町広瀬町	城館跡	中世	
113	陣ヶ平砦跡	国府町広瀬町	城館跡	中世	
114	境の峰砦跡	国府町広瀬町	城館跡	中世	
115	牛追砦跡	国府町三日町	城館跡	中世	
116	光寿庵城跡	国府町上広瀬	城館跡	中世	
117	広瀬城跡	国府町名張	城館跡	中世	
118	寺洞砦跡群	国府町名張	城館跡	中世	
119	高堂城跡	国府町瓜巣	城館跡	中世	岐阜県史跡
120	須代山砦跡	国府町宇津江	城館跡	中世	
121	中切城跡	中切町	城館跡	中世	

第3節 姉小路氏城館跡をめぐる研究史

1 近世～明治

姉小路氏城館跡に関する近世の記録や近現代の先行研究より、各時代における姉小路氏城館跡の認識を中心にまとめる。なお、各城名はそれぞれの記録で統一性がみられないため、『飛驒市遺跡詳細分布調査』（大下永 2019）にて行った城名の整理に従って記述する（第10表）。

享保年間（1728年ごろ）に編纂された『飛州志』において古川城跡、小島城跡、向小島城跡、小鷹利城跡の4城の絵図が描かれている（岡村 1909）（第3～6図）。これは現在確認できる中で城内の様子が描かれた最も古い絵図である。それぞれの絵図では本丸をはじめとする城郭遺構が描かれ、

曲輪の大まかな規模が記述されている。また、方位も記入され河川や山、集落も描かれている。野口城跡に関する詳細は不明とされ、絵図は描かれていない。

延享年間（1746年ごろ）に編纂された『飛驒国中案内』における姉小路氏城館跡に関する記述は5城とも古城跡があったという認識のみにとどまる（大野政雄 1970）。

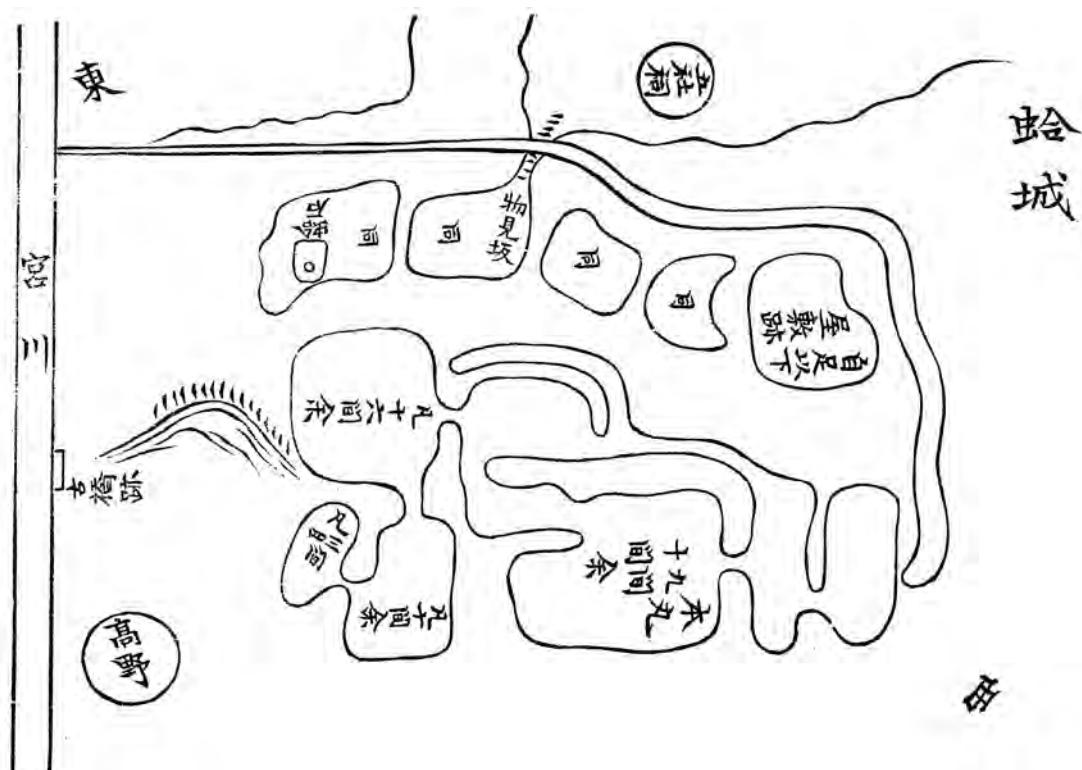
文化～安政年間（1810～1858）に編纂された『飛驒遺乗合府』所載の「古城記」では信包村、黒内村、高野村、野口村に「古城跡あり」との記載がみられる（岡村利平 1914）。

明治6年（1873）に編纂された『斐太後風土記』では村別に地誌がまとめられ、その中で姉小路氏城館跡関連と考えられる古城の記載がみられる（蘆田伊人 1968）。高野村の項目では「蛤蜊城」（古川城跡）に関する記載がみられる。杉崎村の項目では「小島古城」（小島城跡）との記載がある。その後に続く沼町村略誌内に古城が山上にあるという記載がみられ、小島城跡を指す可能性が高い。しかし、城の規模が分かるような説明はされていない。袈裟丸村の項目の中に古城跡の記載があり、詳細は不明となっているが、野口城跡を指す可能性が高い。小鷹利城跡は小鷹利郷の概要内にも記載され、郷を象徴するような存在であったことがうかがえる。そして、信包村の項目では「向小島古城跡」（向小島城跡）と「小鷹狩本城跡」（小鷹利城跡）という2城の歴史が記載され、合わせて黒内城跡の絵図が描かれている。なお、黒内城跡について、「小鷹狩城」（小鷹利城跡）の中に「後爲出丸跡、一云黒内古城、黒内村の戌亥の方、字七曲平の山上に在」（蘆田伊人 1968）との記載があり、小鷹利城跡との関連がみてとれる。絵図では本丸や出丸、方位が描かれ、本丸から尾根線と考えられる線が伸びている。その線を基準に村境が分かれていたようである。

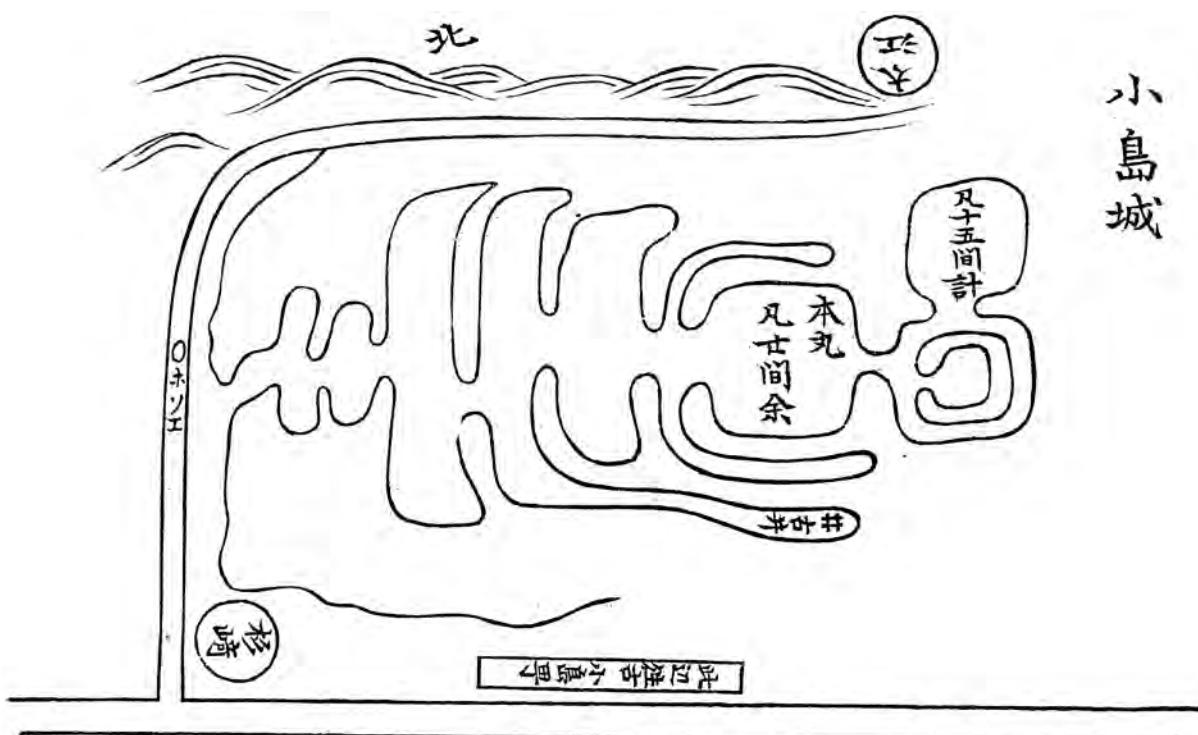
第10表 飛驒市内の主な城館名（記録・報告より）（大下永 2019より転載）

地区	指定文化財名	飛州志 (1728ごろ)	飛驒国中案内 (1746ごろ)	斐太後風土記 (1873)	飛驒の城 (1987)	岐阜県中世城館跡総合 調査報告書 (2005)
神岡	下館跡	江馬之下館	江馬殿の下屋敷	居館	根小屋	江馬氏下館跡
	高原諏訪城跡	諏訪城	古城跡	諏訪城	高原諏訪城 (旭山城、江馬城)	高原諏訪城跡
	土城跡	鬼城	鬼ヶ城	-	-	土城跡（鬼ヶ城）
	寺林城跡	寺林城	村郭跡	寺林城、 久米城之介古城 (玄蕃ヶ城)	寺林城（玄蕃城）	寺林城跡（玄蕃城）
	政元城跡	-	-	古城跡（正本古城）	政本城（政元城）	政元城跡（山田城跡）
	洞城跡	洞城	古城跡	洞城址	洞城	洞城跡（麻生野城）
	石神城跡	二越城	-	杏子城址	杏城（奥二越屋形）	石神城跡 (杏城跡、二越城跡)
	傘松城跡	吉田城	-	傘松古城跡	傘松城	傘松城跡
	東町城跡	東町城、 江馬之御館	古城跡	-	船津東町城 (沖野城、野尻館)	東町城跡（野尻城跡）
古川	八幡山城跡	-	-	-	八幡山城	八幡山城跡
	古川城跡	蛤城 (古川ノ城)	蛤ヶ城	蛤蜊城（古川城）	蛤城 (古川城、高野城)	古川城跡（蛤城跡）
	小島城跡	小島城	小嶋の城	小島古城	小島城	小島城跡
	野口城、 袈裟丸城	野口城、 袈裟丸城	古城跡	古城跡	野口城	野口城跡
	向小島城跡	向小島城	白米ヶ城	向小島古城跡	向小島城	向小島城跡 (信包城跡)
	小鷹利城跡	小鷹利城	古城跡	小鷹狩本城跡	小鷹利本城 (付・古川黒内城)	小鷹利城跡
	増島城跡	増島城	益嶋の城	増島古城	増島城	増島城跡
	百足城跡	百足城	-	-	垣内山城（百足城）	百足城跡（垣内山城）
	下北城跡	下北城	-	下北城	下北城	下北城跡

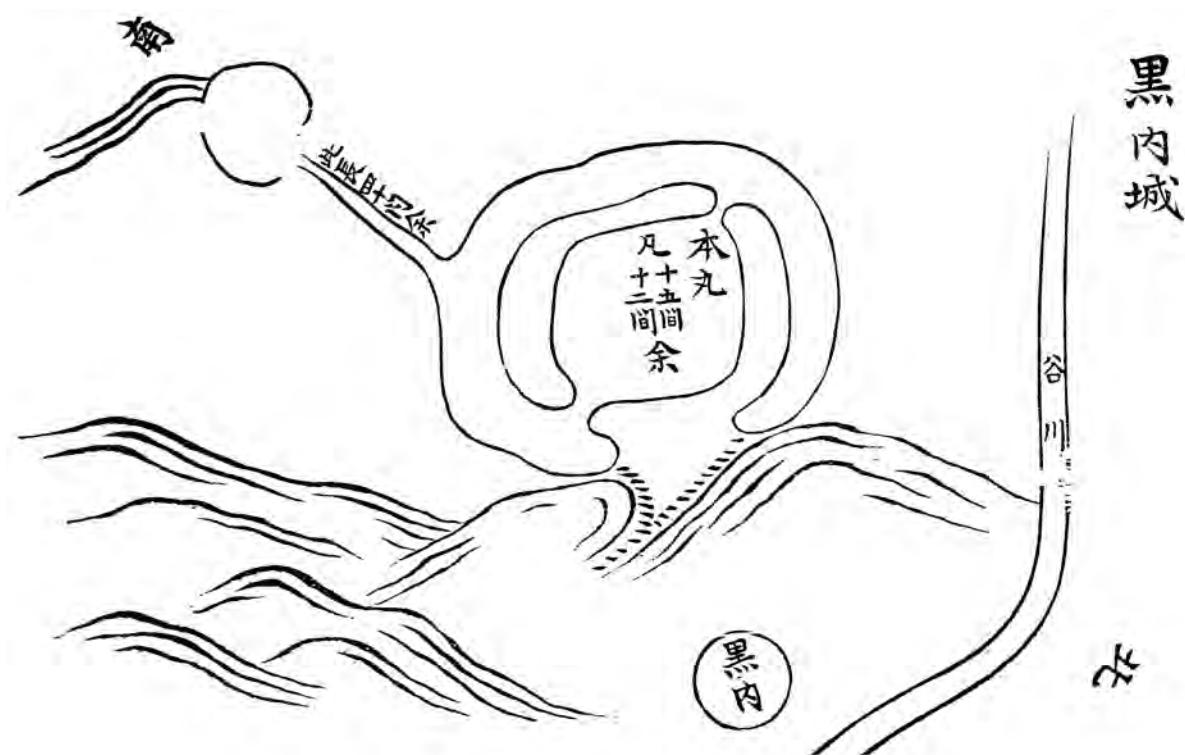
()は、文献内で別称として記載があるもの



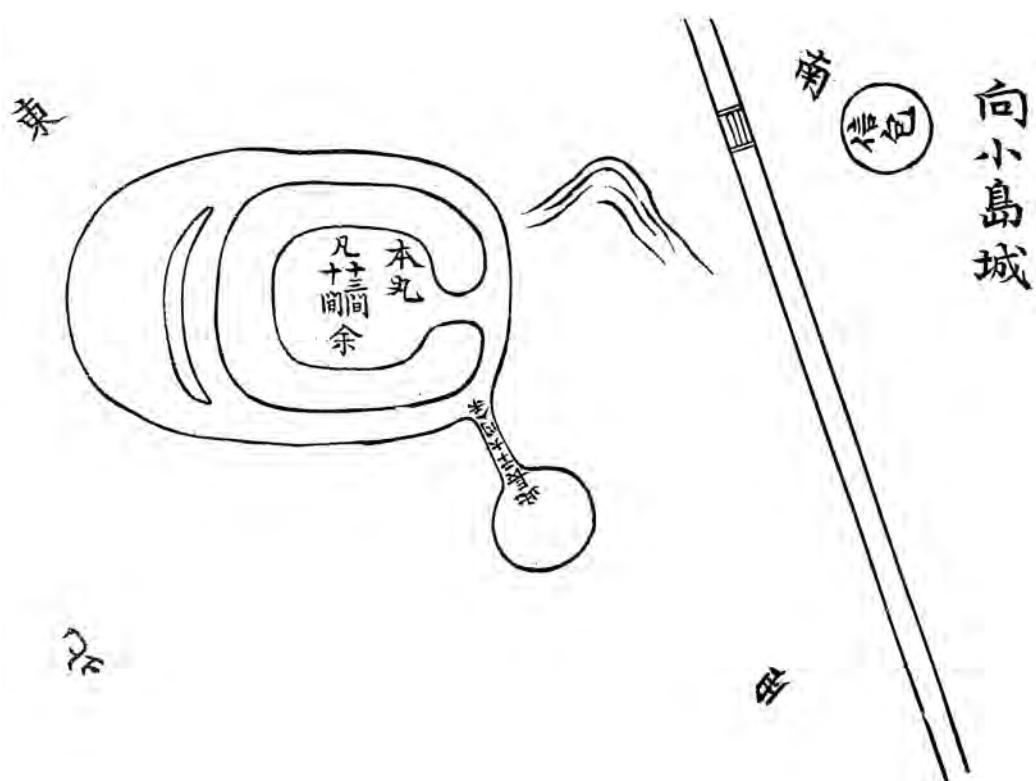
第3図 古川城跡（岡村利平 1909より転載）



第4図 小島城跡（岡村利平 1909より転載）



第5図 小鷹利城跡（岡村利平 1909より転載）



第6図 向小島城跡（岡村利平 1909より転載）

これらの地誌以外に軍記物にも姉小路氏城館跡に関する記述がみられる。『飛驒軍乱記』では「杉崎の城」、「小鷹利城」、「小島の城」、「蛤城」の4城の記述がみられ、落城や滅亡に至るまでの争いの内容が中心に記述されている（岡村利平 1909）。『飛州千光寺記』では出雲守（金森可重）に小島を割り当て与えているという記載があり、小島城が金森氏拠点として一時的に使用されたことが示されている（岡村利平 1909）。

さらに、江戸時代における城館跡の山林利用を把握できる関連資料の整理を行った（第11表）。『古川町史史料編二』に所載される各地の近世の御林山帳には各村の山の利用状況が記載され、その中で城館跡が所在する大字、小字、孫字も含まれる（古川町 1984）。字名について、現在と異なる漢字があてられている箇所も見られたが、現存する字名が多く見受けられた。多くの字名が江戸時代には存在しており、現在まで引き継がれていることが分かる。『享保六年改太江ほか六ヶ村御林山字箇所帳』では小島城跡内の字城山を焼畑として利用していたことが記されている。『享保十二年飛驒国吉城郡御林山帳抄』では古川城跡、小島城跡、野口城跡、向小島城跡の一部は草山や焼畑として利用されていたと記されている。『享保十二年高野ほか三ヶ村山御改帳』では小島城跡と古川城跡について記載され、同様の状況である。『天保十五年御林山内取調箇所附帳』では村ごとに整理して記録されている。古川城跡では田畠などの利用がみられる。小島城跡では草刈山と記載され、焼畑や薪山といった多岐にわたる利用がうかがえる。野口城跡は草山などになっていた。小鷹利城跡は柴草山として利用されていた。向小島城跡は草山であり、薪や木を刈り取る場として利用されていた。

2 昭和の研究史

昭和34年（1959）に野口城跡を除く古川城跡、小島城跡、小鷹利城跡、向小島城跡の4城が岐阜県史跡に指定された。指定にあたり岐阜県による調査が行われた（岐阜県教育委員会 1963）。古川城跡では本丸跡を含む数カ所の平坦部が確認されており、金森氏の改修があったとされる。小島城跡について、指定の際に調査された縄張りの様相は『飛州志』掲載の絵図と合致するとしている。小鷹利城跡では本丸跡のみが確認され、『飛州志』の絵図と異なっていないと述べている。向小島城跡でも『飛州志』の絵図と相違がないとしており、五段の平地と本丸跡が確認され、明確な痕跡が残っているとは言い難いという。

『日本城郭全集⑦』には5城すべての概要が記載されている（森本一雄 1966a・b・c・d・e）。古川城跡では本丸南方の平地から中腹にかけて屋敷跡がみられるとしている。二の丸から本丸に上がる途中で近世期の枠形虎口の存在を示唆している。二の丸では庭石のような石の存在から屋形があった可能性を言及している。さらに「この城の縄張りは雄大で（中略）堅固な築城技術を示している」（森本一雄 1966d）との見方を示している。小島城跡は歴史が中心に整理されており、城内の様子は詳述されていない。野口城跡は縄張りが整然としているとの見解である。小鷹利城跡は三の丸までの曲輪や腰曲輪、土塁など主要な城郭遺構が確認されている。向小島城跡では出丸の構築年代が遡るとの見方を示す。大手道は笛ヶ洞からの登城路とし、付近に屋敷跡があった可能性が推定されている。

『日本城郭大系第9巻』では野口城跡を除く古川城跡、小島城跡、小鷹利城跡、向小島城跡の4城の解説が行われている（平井聖ほか編 1979）。古川城跡については本丸跡の規模や屋敷跡について『飛州志』から想定されている。小島城跡は「越中あるいは高原郷からの侵入を防ぐには格好の場所である」としている（平井聖ほか編 1979）。本丸跡西南角では数mの石垣が確認されている。向小島城跡

第11表 江戸時代の姉小路氏城館跡に関連する山林の記録

資料名	城名	村名	山名・字名	状況	備考
享保六年改太江ほか六ヶ村御林山字箇所附帳	小島城跡	袈裟丸村	城山	—	焼畠毫反八畝三拾步古来
	古川城跡	高野村	神子ヶ洞山	草山	
	小島城跡	沼町村	城山	草山	古来より之燒畠
	野口城跡	袈裟丸村	城山	草山	古来より之燒畠
		みぞ上洞山	内 かうじ口	柴木立	古来より之燒畠
	向小島城跡 信包村	とべろき山	草山		古来より之燒畠
	小島城跡	沼町村	城山	草山	
	古川城跡	高野村	神子ヶ洞山	草山	上町 是重 大野 入相山
		古川郷高野村	神子ヶ洞山之内 城山	草山	
	古川城跡	高野村	蛭城山	当時表平草刈山 裏平薪山	上町 大野 是重 三ヶ村抱
		高野村	神子ヶ洞	当時尾通薪山 根前草刈山	古来草山
	高野村	下段		田畠畔端、高ぼた、川端等二有之候	古来草山
5 行真村・沖之町村御林山内取調箇所附帳	小島城跡	行真村・沖之町村	南洞	古来より草刈山	但御植木場御座候
				古来より字城山 内 小字本城下前平	
				古来より字城山 内 小字本城下後平	当時尾通燒畠 平薪山
				古来より字城山 内 小字大き	古来草山
				古来より字城山 内 小字最洞	当時尾通燒畠 平薪山
				字桃の木洞 内 小字木洞	古来草山
				字桃の木洞 内 小字日面平	当時尾通燒畠 平薪草山
				字桃の木洞 内 小字日影平	当時尾通燒畠 平薪草山
				字宮ヶ洞 内 小字城山	古来草山
				字宮ヶ洞 内 小字岩崎	当時尾通雑木立薪場所 根前草かり場
				字いぶね 内 小字幸田洞	古来草山
				字いぶね 内 小字牛ヶ谷	当時柴草山
				字いぶね 内 小字しほや 孫字七曲り	但御植木場御座候
				字いぶね 内 小字どろき 内 小字城山	古来草山
				字いぶね 内 小字岩崎	古来草山
6 沼町村御林山内取調箇所附帳	向小島城跡	塙ヶ洞村		当時柴草山	古来草山
				当時柴草山	
				当時柴草山	但御植木場御座候
				当時柴草山	古来草山
天保十五年御林山内取調箇所附帳	小鷹利城跡 信包村			当時柴草山	古来草山
				当時柴草山	
				当時柴草山	但御植木場御座候
				当時柴草山	古来草山
18 信包村御林山内取調箇所附帳	向小島城跡 信包村			当時柴草山	古来草山
				当時柴草山	
				当時柴草山	但御植木場御座候
				当時柴草山	古来草山
19 黒内村御林山内取調箇所附帳	小鷹利城跡 黒内村	元尾崎谷山之内	古来より小字七曲り平	古来より尾通雑木立薪山 根前柴薪場	古来草山

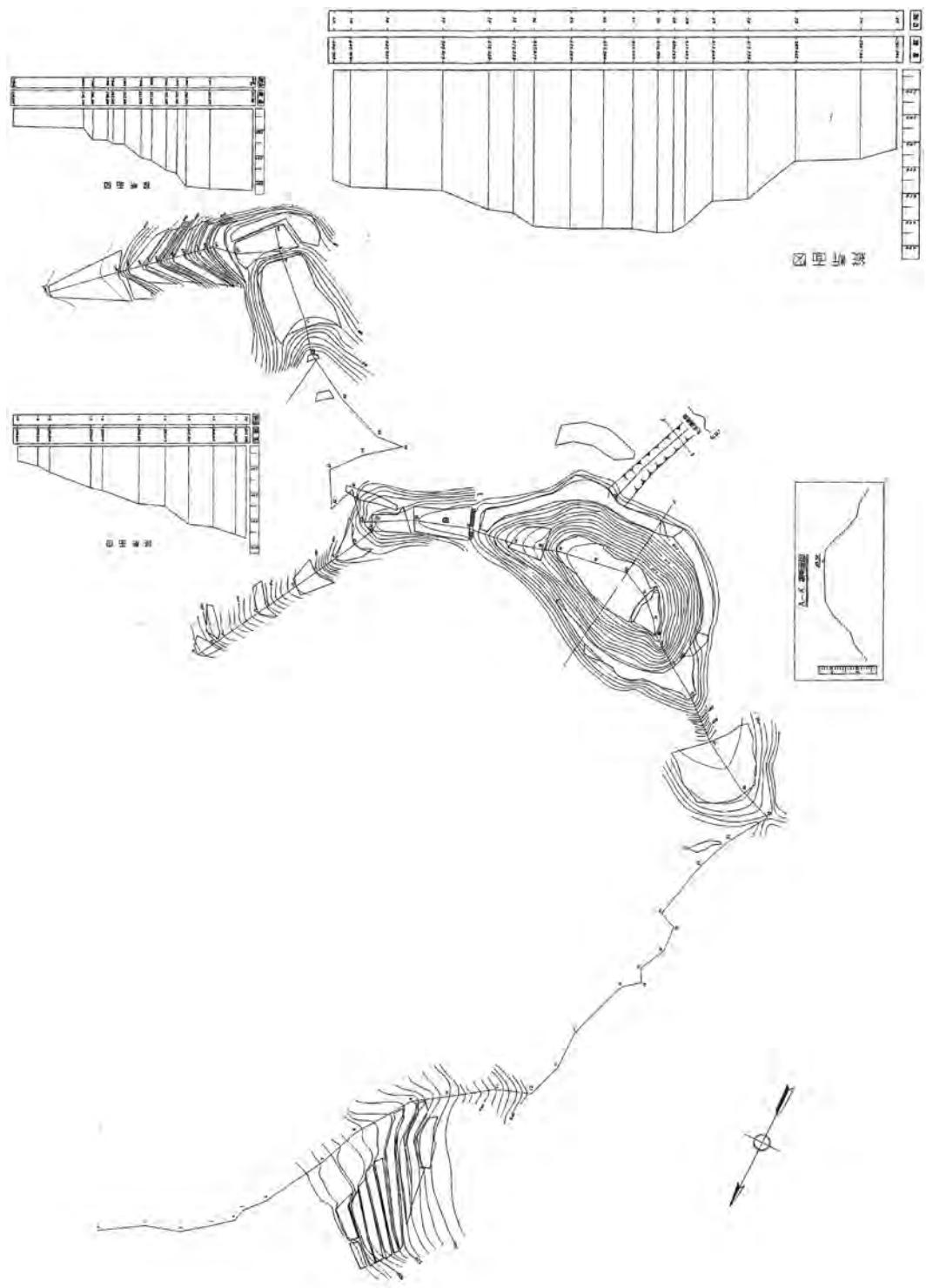
は「古川盆地の北側にあって、越中富山から高山に至る越中街道の入り口を扼する位置にある」としている（平井聖ほか編 1979）。本丸について指定時の岐阜県の調査が引用され、腰曲輪の規模が詳細に記載されている。『飛州志』で本丸とされていた箇所は「第五段」の平坦地と称されている。また、大手道とした笹ヶ洞から登る道の付近に屋敷跡があったと推定されている。小鷹利城跡は「越中から高山に至る入り口を扼している重要な場所」としている（平井聖ほか編 1979）。本丸跡は『飛州志』の絵図より小さな約 50 坪の平坦部と考えられ、土壘などは残っていないとしている。

また、『古川町史付図目録史料編四』には古川城跡、小島城跡、向小島城跡の測量図が付図されている（古川町 1986b）（第 7～9 図）。測量図は斐太農林高等学校農業土木科（現飛驒高山高等学校）によって作成されているが、測量された時期は不明である。古川城跡では現在蛤石のある曲輪の西側にある石垣や巨大な堅堀が描きこまれている。山頂の断面図から切岸が急であることが読み取れ、現状と同様である。小島城跡では西側の虎口付近に石垣のような図が描かれている。向小島城跡では方位がずれているが、堀切や東西に設けられている小規模な曲輪群まで詳細に描きこまれている。また、南側の畝状空堀群らしき記載もあり、この段階すでに畝状空堀群が認識されていたことが分かる。

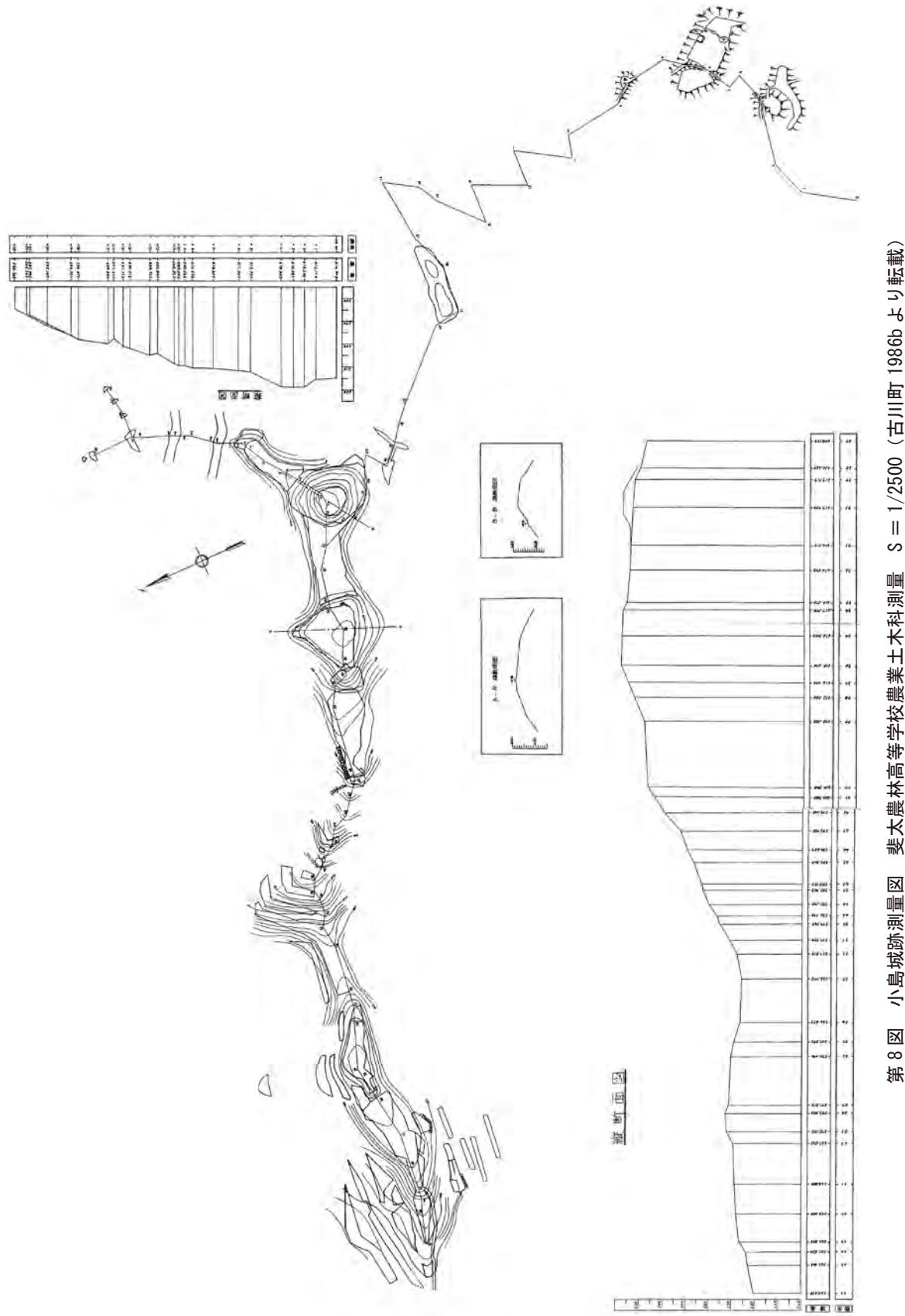
森本一雄は『定本飛驒の城』において、5 城の遺構状況や歴史伝説について記載している（森本一雄 1987）（第 10～14 図）。古川城跡の遺構に関して『日本城郭全集』の記述と同様であり、本丸の北及び西には石垣があったと推定されている。また、本丸外曲輪や二の丸などの詳細な規模が記述されている。小島城跡では本丸や本丸南曲輪、二の丸等の規模が確認されているが、『飛州志』に描かれている井戸は確認できなかったという。三の丸は旧城と考えられている。野口城跡では本丸や三の丸に相当する平地、本丸曲輪あるいは二の丸の規模が確認されている。三の丸西南隅に門跡のような形状が確認できる。さらにそこから下っていく辺りに畠が広がっており、屋敷跡の可能性があると考えられている。小鷹利城跡では本丸・二の丸・三の丸・西の丸・外曲輪・空堀等が確認され、二の丸の西側には連続した堅堀も図示されている。大手道は七曲り道とも呼ばれ、三の丸の南側を通るとしている。搦手は三の丸西方を通り稻越へ下るとしている。向小島城跡では本丸・二の丸等が確認され、矩形の曲輪はよく整備されているとしている。初めは現状の出丸が本丸で小規模な腰曲輪や堀切からなっていたが、後に本丸が移され、旧本丸を出丸としたとしている。

3 近年の研究

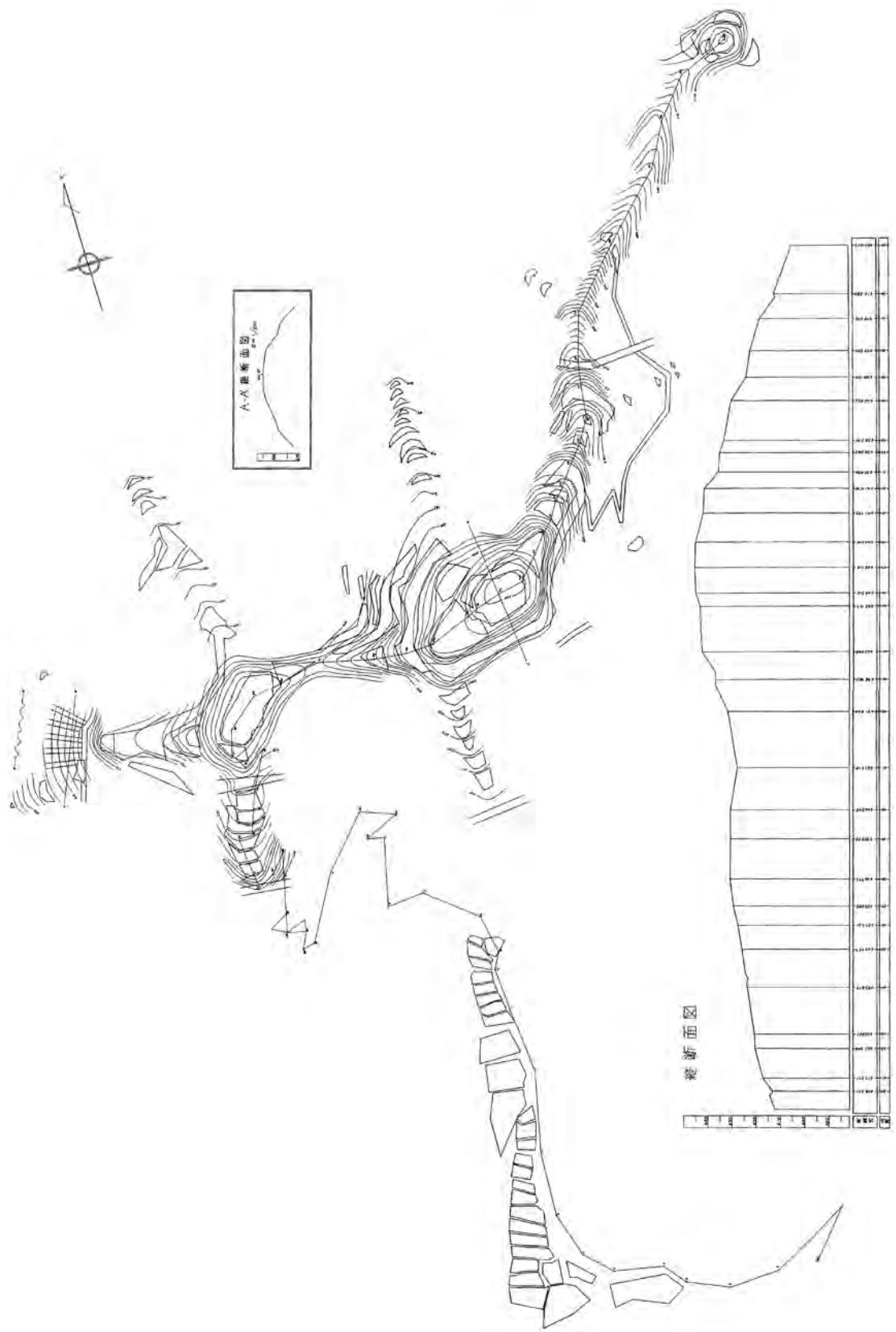
近年、岐阜県により中世城館跡総合調査が実施され、5 城の詳細な縄張り図が示されている（岐阜県教育委員会 2005）。古川城跡では石垣が全体的に点在することから総石垣造りであり、特に枡形虎口を明確に確認できることから、建造物が建っていた可能性が推定されている。小島城跡では一部石垣が残っている箇所が確認され、石垣上に建造物が建っていたとされる。三木・江馬氏の城郭に虎口は見当たらないため、金森氏が改修して一時的に在城した可能性があったと考えられている。野口城跡では堀切や切岸等が北側に集中し、尾根や沢からあがってきた敵を攻めるような構造であると考えられている。小鷹利城跡では曲輪がよく削平されており長期間の使用が推定されている。十数本の畝状空堀群は向小島城、野口城跡と同型で西側の湯峰峠を向いていることから、金森氏の侵攻を警戒していたと考えられる。山頂に至るまでの枡形虎口や土壘は攻撃がしやすいように配置され、古川城跡でも同様な考え方を見てとれるとしている。向小島城跡の主郭は山頂の曲輪とされ、西側に小規模な曲輪が続くことが確認されている。城内の曲輪に時代差を見出すことはできず、未加工な部分も残るため、



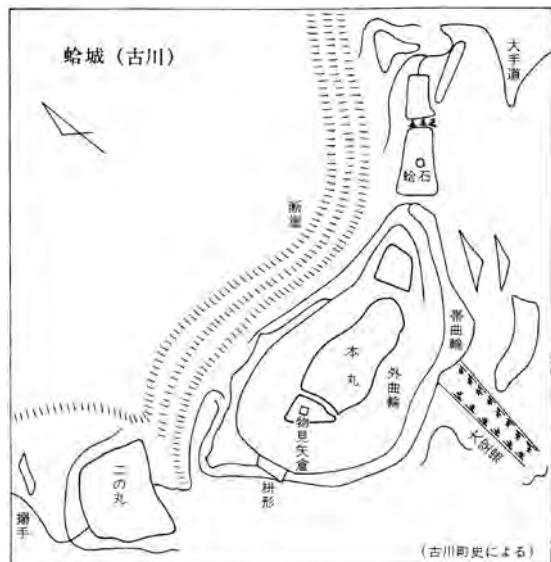
第7図 古川城跡測量図 貝太農林高等学校農業土木科測量 $S = 1/2500$ (古川町 1986b より転載)



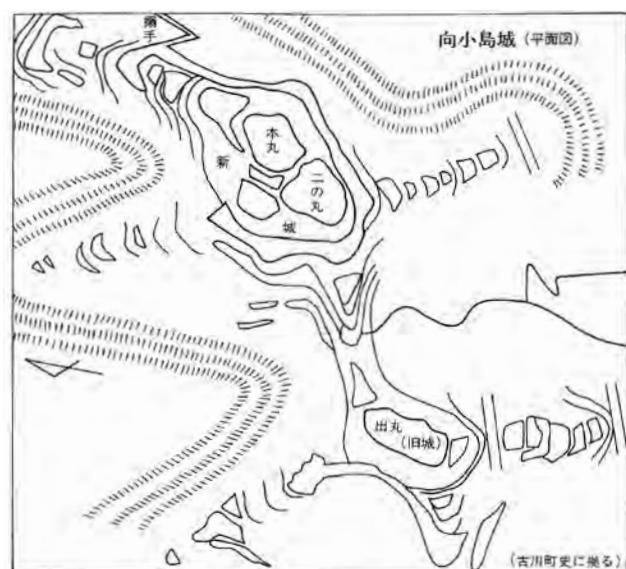
第8図 小島城跡測量図 貝太農林高等学校農業土木科測量 $S = 1/2500$ (古川町 1986b より転載)



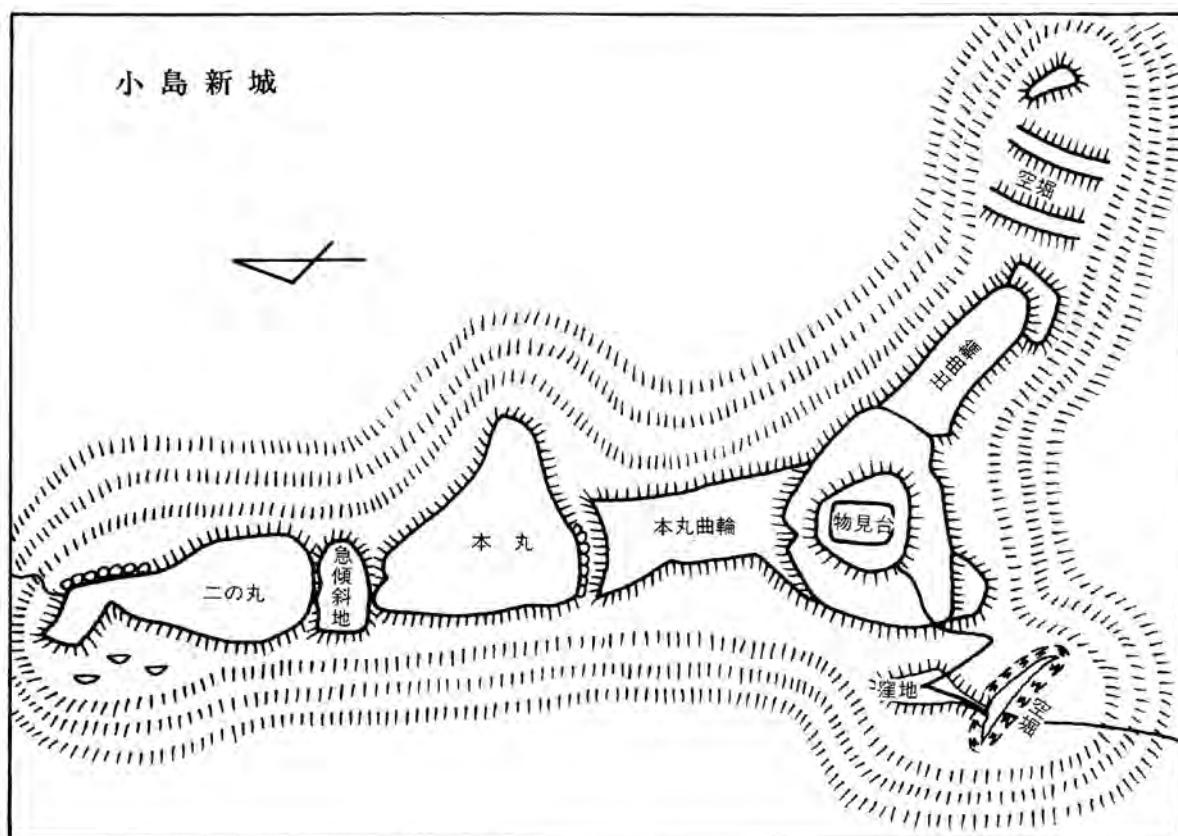
第9図 向小島城跡測量図 豊太農林高等学校農業土木科測量 $S = 1/2500$ (古川町 1986b より転載)



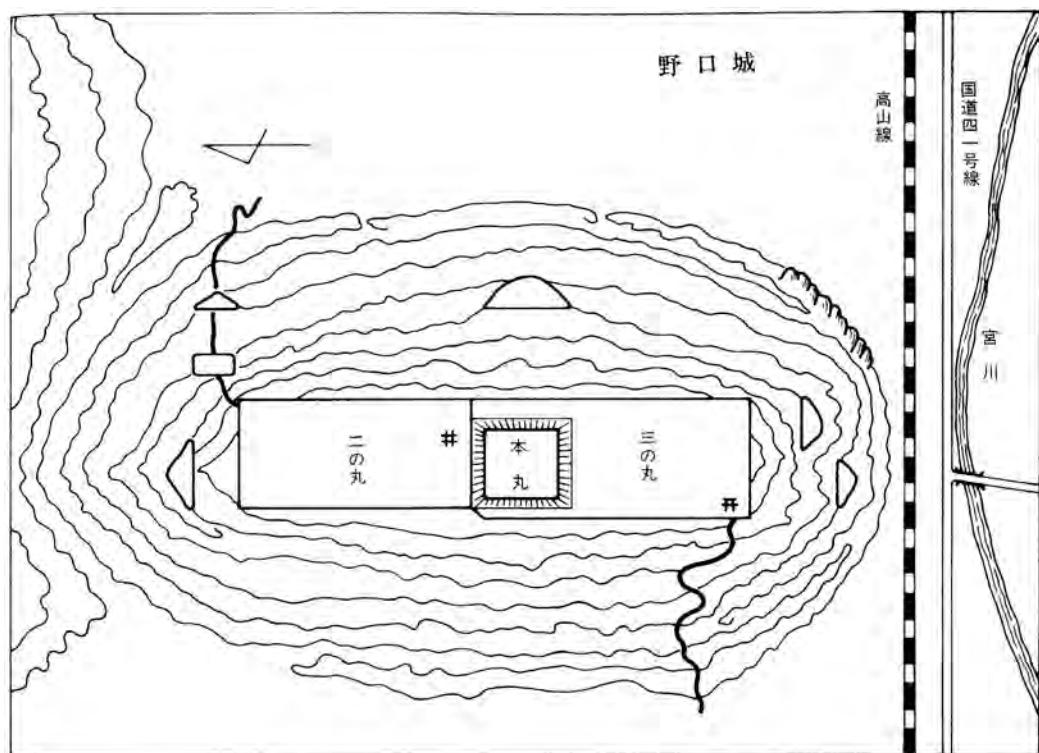
第10図 古川城跡（森本一雄 1987 より転載）



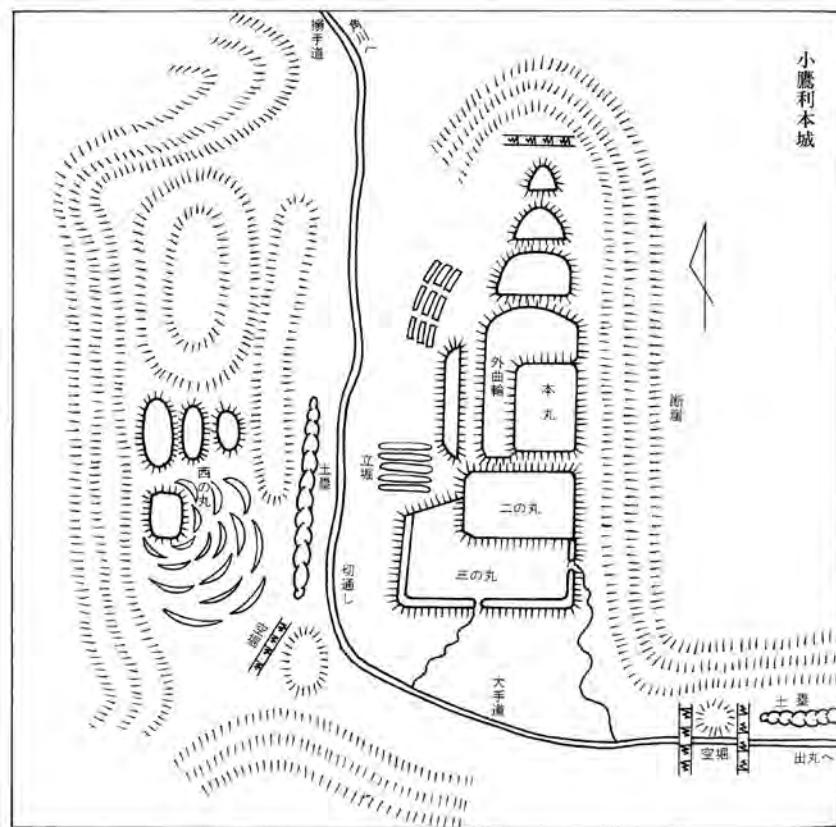
第11図 向小島城跡（森本一雄 1987 より転載）



第12図 小島城跡（森本一雄 1987 より転載）



第13図 野口城跡（森本一雄 1987 より転載）



第14図 小鷹利城跡（森本一雄 1987 より転載）

三木氏が急遽築城したと考えられている。また、虎口から山頂に至るまでの通路設定、横矢をかけられる曲輪配置等、高い計画性があるとしている。このため、廃絶年代が天正年間まで下る可能性が考えられている。切岸上に土塁が設けられている箇所は他に確認されず、その理由は保峰を越えた場合に重要な地点であったためであるとしている。野口城跡・小鷹利城跡・向小島城跡では畝状空堀群と横堀がセットになった遺構が確認されている。金森氏の進路沿いの街道に位置することから三木氏の改修と考えられている。古川城跡では内枡形虎口、小島城跡では石垣を伴う虎口、小鷹利城跡では枡形虎口等が確認されていることから、金森氏によって改修されたと推定されている。

佐伯哲也は『飛驒中世城郭図面集』において、中世城館跡総合調査を受けて、縄張りの再検討を行っている（佐伯哲也 2018）。古川城跡の縄張り図では東側に屋敷跡と考えられる平坦面が追加され、その屋敷跡を防御するための切岸や堅堀を確認している。また小島城跡では主郭周辺の東側とそれより 50 m 低い西側の 2 地区に区分した。縄張り図には、新たに北側斜面に堅堀、南側斜面に中央の虎口から続く小規模な平坦地を追加している。さらに主郭南側切岸にバイパスのような通路も追加し、その通路の東側に『飛州志』に伝わる井戸跡は確認できないという。城郭の遺構は 16 世紀後半と考えられ、小島氏築城初期の遺構は確認できないとしている。畝状空堀群が確認できないことから、三木氏による改修はなかったと考えられている。野口城跡の縄張り図では南側曲輪に南側に堅堀を新たに追加し、東端の高まりは古墳と考えられている。北側に並んだ二つの曲輪間に虎口を推定している。また、西側二つの曲輪には遮断線が存在しているものの帶曲輪によってつなげたと考えられている。当時の城道は南側曲輪の畝状空堀群付近と想定している。小鷹利城跡の縄張り図では東側の尾根に堀切を追加している。東側は堀切が小規模であるため大手道と推測している。向小島城跡の縄張り図では旧城とされる出口に堀切の一種とされる遺構を追加している。大手道は南側の堀切から南側曲輪につながるとしている。

4 小結

姉小路氏城館跡に関する記録は江戸時代まで遡ることができ、その頃から城跡という認識があったことが分かる。合わせて古い絵図が描かれており、精度は高くないが当時の城の規模が大まかに分かる絵図となっている。昭和 34 年（1959）に 4 城が県史跡に指定されたことを契機に、様々な研究者によって縄張りを中心として調査・研究が進められた。近年は岐阜県によって中世城館総合調査が行われ、高精度の縄張り図が作成されている。それによって残存する城郭遺構が明らかとなった。古川城跡をはじめとする 5 城では防御遺構である堀切や土塁が確認されている。さらに歴史的背景の検討が行われている。それにより、これらの 5 城は、姉小路氏関連の山城として機能していたと明らかとなった。

姉小路氏に関する文献史料が少ない中で、城館跡の規模や概要の把握を目的とした基礎的調査が進められてきた。しかし、これまで城館跡単体の縄張りに着目されることが多く、城館跡と隣接する集落との関係性や飛驒地域全体でみた歴史的変遷の検討に余地が残る。また、地表面観察で確認できない 5 城それぞれの詳細な遺構状況を把握し、使用年代の検討を要することも課題であった。

【第2章 引用参考文献】

- 蘆田伊人編 1968『大日本地誌大系 斐太後風土記』雄山閣(富田礼彦 1873『斐太後風土記』、1968年再版、雄山閣を参照)
- 大下永 2019「第3章第1節史跡江馬氏城館跡と傘松城跡の位置づけ」『飛騨市遺跡詳細分布調査報告－古川町・神岡町－』飛騨市教育委員会
- 大野政雄ほか 1960『村山遺跡』
- 大野政雄・佐藤達夫 1967「岐阜県沢遺跡調査予報」『考古学雑誌第53巻』日本考古学会
- 大野政雄編 1970『飛騨国中案内』(上村木曾右衛門 1746『飛騨国中案内』)
- 岡村利平編 1909『飛州志』住伊書店(長谷川忠嵩『飛州志』(享保年間)、1969年限定版、岐阜日日新聞社岐阜県郷土資料刊行会を参照)
- 岡村利平校訂 1914『飛騨叢書第三巻 飛騨遺乗合府』住伊書店(桐山力所編『飛騨遺乗合府』(江戸末期)、1986復刻版、かすみ文庫を参照)
- 神岡町教育委員会 1979『江馬氏城館跡発掘調査概報』
- 神岡町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室 1995『江馬氏城館跡』
- 神岡町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室 1996『江馬氏城館跡II』
- 神岡町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室 1997『江馬氏城館跡III』
- 神岡町教育委員会 1998『江馬氏城館跡IV』
- 神岡町教育委員会 2001『江馬氏城館跡V』
- 上町遺跡金子・氷見地点発掘調査団 2001『上町遺跡金子地点・氷見地点発掘調査報告書』古川町教育委員会
- 上町遺跡C地点発掘調査団 1989『上町遺跡C地点発掘調査報告書』岐阜県吉城郡古川町教育委員会
- 上町遺跡C地点発掘調査団 1991『上町遺跡D地点発掘調査報告書』岐阜県吉城郡古川町教育委員会
- 上町遺跡トヨタ地点・0地点・栗原センター地点発掘調査団 1994『上町遺跡トヨタ地点・0地点・栗原センター地点発掘調査報告書』岐阜県古川町教育委員会
- 岐阜県教育委員会 1963『岐阜県指定文化財調査報告書第六巻』
- 岐阜県教育委員会 2005『岐阜県中世城館跡総合調査報告書第4集(飛騨地区・補遺)』
- 国府町教育委員会 1992『国府町内遺跡詳細分布調査報告書』
- 国府町教育委員会 1993a『半田垣内遺跡』
- 国府町教育委員会 1993b『岐阜県国府町遺跡地図』
- 国府町教育委員会 2005『石橋廃寺調査報告書』
- 国府町史刊行委員会 2007『国府町史 考古・指定文化財編』
- 国府町史刊行委員会 2011『国府町史 通史編1』
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2005『太江遺跡II』
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006『西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳』
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2007『中野大洞平遺跡II』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 1992『深沼遺跡』

- 財団法人岐阜県文化財保護センター 1995 『岡前遺跡』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 2002 『太江遺跡・寿楽寺廃寺跡』
- 佐伯哲也 2018 『飛騨中世城郭図面集』 桂書房
- 杉崎廃寺跡発掘調査団 1998 『杉崎廃寺跡発掘調査報告書』 古川町教育委員会
- 高田徹 1994 「飛騨の中世城郭 4題—織豊期を中心として—」『越中の中世城郭第4号』 富山の城を考える会
- 高山市教育委員会 2013 『高山市内遺跡発掘調査報告書』
- 中野山越遺跡発掘調査団 1993 『中野山越遺跡発掘調査報告書』 岐阜県吉城郡古川町教育委員会
- 八賀晋 2004 『岐阜県史跡信包八幡神社古墳測量調査報告書』 飛騨市教育委員会
- 飛騨市教育委員会 2010a 『増島城跡』
- 飛騨市教育委員会 2010b 『江馬氏城館跡VI』
- 飛騨市教育委員会 2013 『上町遺跡向町地点』
- 飛騨市教育委員会 2014 『黒内細野遺跡』
- 飛騨市教育委員会 2016 『上町遺跡第28～33・37次 個人住宅に伴う発掘調査報告書』
- 飛騨市教育委員会 2017a 『沢遺跡』
- 飛騨市教育委員会 2017b 「百足城跡現地説明会資料」
- 飛騨市教育委員会 2018a 「古川城跡現地説明会資料」
- 飛騨市教育委員会 2018b 「小島城跡現地説明会資料」
- 飛騨市教育委員会 2018d 『飛騨市遺跡地図』
- 飛騨市教育委員会 2018e 『上町遺跡7』
- 飛騨市教育委員会 2019a 『飛騨市遺跡詳細分布調査報告』
- 飛騨市教育委員会 2019b 「向小島城跡現地説明会資料」
- 飛騨市教育委員会 2019c 「小鷹利城跡現地説明会資料」
- 飛騨市教育委員会 2019d 「野口城跡現地説明会資料」
- 飛騨市教育委員会 2019e 『史跡江馬氏城館跡・名勝江馬氏館跡庭園 保存活用計画書』
- 飛騨市教育委員会 2020 『江馬氏城館跡7・江馬氏殿遺跡』
- 平井聖ほか編 1979 『日本城郭大系 第9巻 静岡・愛知・岐阜』 新人物往来社
- 古川町 1984 『古川町史史料編二』
- 古川町 1986a 『古川町史史料編三』
- 古川町 1986b 『古川町史付図史料編四』
- 三好清超 2019b 「飛騨における軒瓦の一様相」『古代寺院史の研究』思文閣出版
- 森本一雄 1966a 「小島城」『日本城郭全集⑦』人物往来社
- 森本一雄 1966b 「小鷹利本城」『日本城郭全集⑦』人物往来社
- 森本一雄 1966c 「野口城」『日本城郭全集⑦』人物往来社
- 森本一雄 1966d 「蛤城」『日本城郭全集⑦』人物往来社
- 森本一雄 1966e 「向小島城」『日本城郭全集⑦』人物往来社
- 森本一雄 1968 『飛騨の城』濃飛展望社
- 森本一雄 1987 『定本 飛騨の城』郷土出版社